



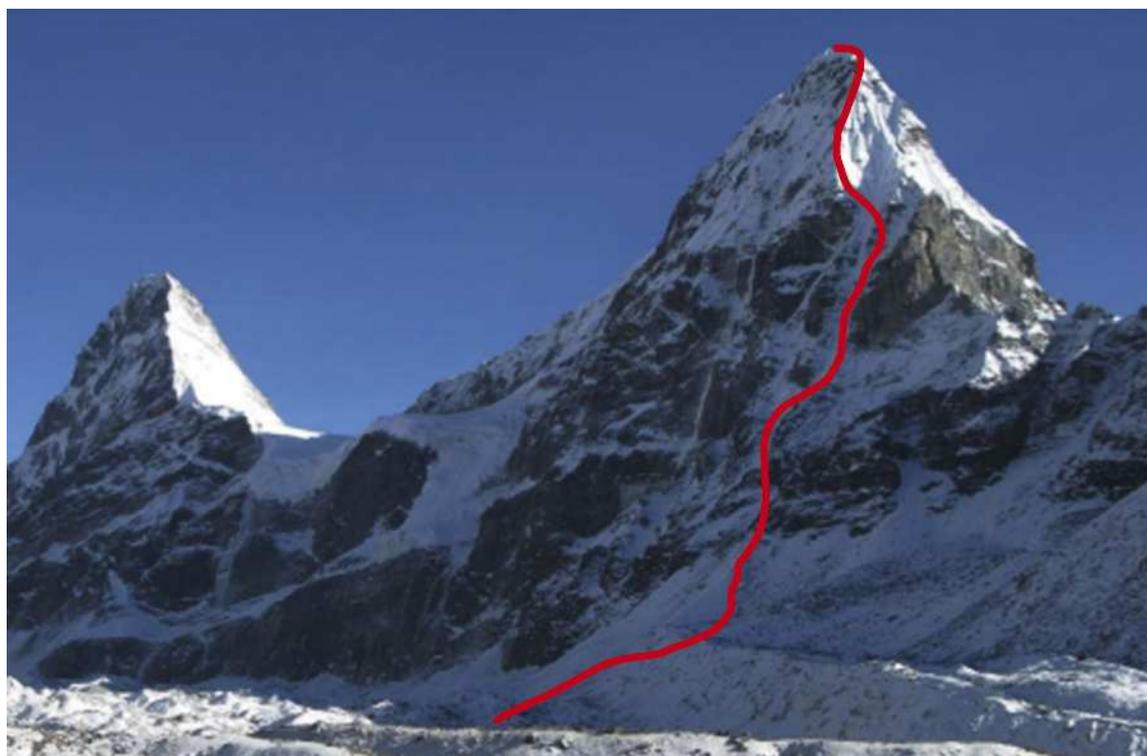
東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 168 Jan. 1. 2022

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部
〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCEビル
電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924
郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」
銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店
普通1222073 「日本山岳会東海支部」
編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



支部60周年記念カンチュンナップ峰登山隊 詳細はP3参照

目次

| | | | | | |
|-----------------|-------|----|---------------|-------|----|
| ○年頭のご挨拶 | 高橋玲司 | 2 | ○随想 回想の登頂記① | 杉浦吉治 | 15 |
| ○支部創立60周年記念 | | | ○トピックス | | 17 |
| カンチュンナップ登山隊 | 山田利行 | 3 | ○東海支部蔵書からの一冊⑩ | 石田文男 | 18 |
| 第14次インドヒマラヤ登山隊 | 星 一男 | 5 | ○東海岳人列伝② | 西山秀夫 | 19 |
| ○晩餐会ウィークに | | | ○同好会コーナー | 村中征也 | 22 |
| 山田・谷支部員Zoom講演 | 星 一男 | 7 | ○支部友コーナー | 田中 進 | 23 |
| ○冬山フェスタ開催 | 今津英一郎 | 8 | ○登山用具あれこれ② | 千葉泰丈 | 24 |
| ○2年ぶりのブラインド登山 | 前田隆久 | 9 | ○委員会報告 亀の会/山行 | | 25 |
| ○SDGsと猿投の森づくり活動 | 和田豊司 | 10 | ○会務報告 | 今津英一郎 | 27 |
| ○ゴザフェス2021と秋の総会 | 丸岡春香 | 11 | ○ルーム日誌・会員異動 | 今津英一郎 | 30 |
| ○「道迷い遭難を防ぐ」講習会 | 林須美子 | 12 | ○INFORMATION | 星 一男 | 31 |
| ○尾崎祐一氏追悼 | 尾上 昇 | 13 | ○編集後記 | | |

年 頭 の ご 挨拶

支部長 高橋 玲司

新年あけましておめでとうございます。

日本山岳会東海支部も昨年設立60年目を迎え、節目の年にあたりました。改めましてご挨拶をさせていただきます。

昨年を振り返りますと、なんといっても一昨年度からの新型コロナウイルスの感染症の蔓延という未曾有の災難に遭遇し、非常事態宣言の発令される1年でありました。年末近く終息に向かっていますが、東海支部におきましても、山行自粛、写真展や音楽祭など数々の集まりの中止、活動縮小など活動停止措置を取らせていただきました。皆様におかれましては、辛抱の連続であったかと思います。

さて、新年にあたり、行事も少しずつ実施させていただきますが、第一に考えなければいけないことは、日々変わる新型コロナウイルスに向けた、行政の指針に基づき行動していただくことであります。趣味である山登りという活動の中で、まさに不要不急の活動となりますので、最大限配慮の上行動をお願いいたします。

60年の節目を迎え、周年事業も少しずつ行われます。特にヒマラヤ登山も2隊が予定され、山田利行君率いる2名がクーンブヒマラヤの未登のカンチュンナップ北壁(6090m)をアルパインスタイルにて初登攀を狙い、星一男さん率いる第14次インドヒマラヤ隊がパンゴン山脈の未踏峰を目指します。若手の精鋭によるアルパイン登山と、実年登山隊と60周年にふさわしい2隊を送り出すことになります。無事成功し最大限の活躍を期待いたします。

さて、コロナにおける生活様式の変化とともに、登山のスタイルも大きく変わってきています。テント場では一人用テントの大賑わい。山のインターネット情報サイトの乱舞。『個』を主体とした登山の方向性への加速は、必然となっていくでしょう。

今年度より、SNS対応の情報発信や、『個』への対応をしながらの、集団のメリットを生かした取り組みを行っていきたいと思います。具体的には、SNSなどの電子媒体を活用し



つつ、募集や情報発信を行い、対面での講習や実践などを行う方法などがあるでしょう。従来のひざ詰めの付き合い、酒を組み交わした交流、同じ釜の飯を食うスタイルを踏まえ『新しい

生活様式』を受け入れながら、新しいコミュニケーションの姿を作り上げていただきたいと思います。

本会が未来永劫続くために、『山岳会』のあり方を大きく考える年にしなければいけません。世間の登山者の、マスの求める山岳会とは何かを一緒に考え、実践する一年にしたいと思います。

最後になりましたが、近年社会通念としてコンプライアンス、法令順守意識の浸透は常識となり、安全登山に最大限配慮する取り組みが、山岳会の果たす社会通念上の責務として定着化されてきております。

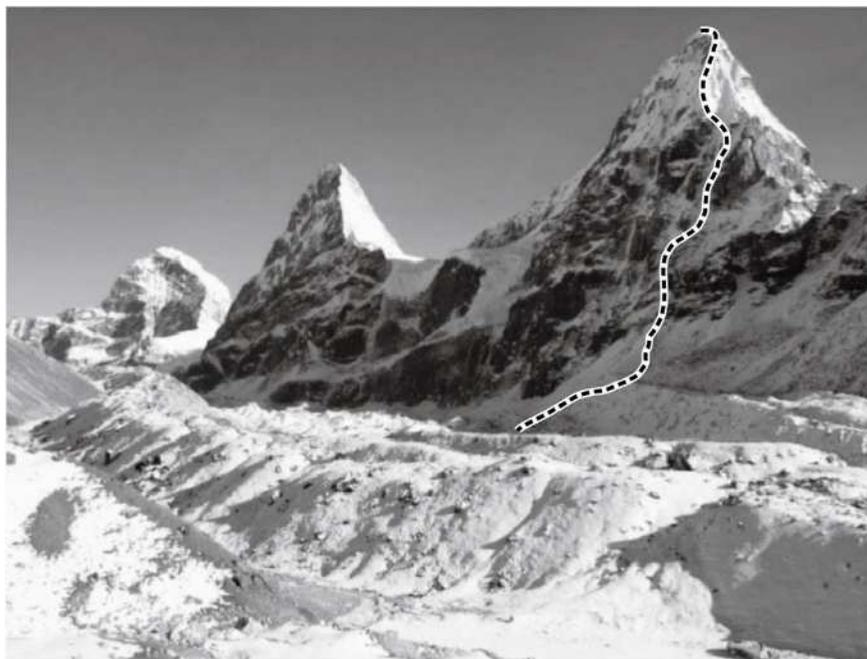
残念ながら登山計画書の未届け案件による事故も過去にあり、当会も苦い経験をしています。警察等への計画書の作成提出は義務化される地域もあります。安全登山を遂行し指導して行く事も山岳会の大きな責務となっていると感じます。

どうか皆さん、今年も安全には最大限配慮し、楽しく活躍される事と、東海支部が益々発展する事を祈念申し上げまして、年頭のごあいさつと代えさせていただきます。

最後になりましたが、延期していましたが支部創立60周年の集いが、1月16日開催されます。多くの支部関係者の皆様とお会い出来る事を楽しみにしています。

東海支部 60 周年記念カンチュンナップ登山隊計画

支部員 山田利行



5、現地エージェント

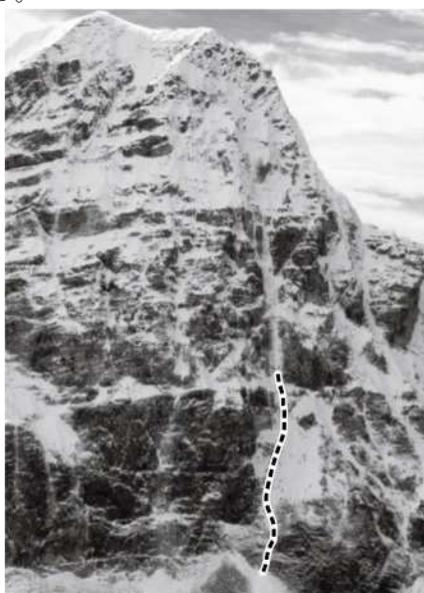
Kangri Trek (P) Ltd.
Naxal, Bhagwati, Bah
al, Kumari Marg, Kathm
andu, Nepal
TEL: 00977-1-4414633,
4414644
E-mail: kahangritrek@
mos.com.np

代表 Pasang K Sherpa

6、カンチュンナップ 北壁登攀史

ゴーキョの北面に位置するカンチュンナップは南面から登頂はされているが、北面からの登頂記録は無く、北面からの初登攀を狙う。2014年の記録から2016

年の日本隊、直近では2019年のイギリス隊によってトライされているが、いずれの隊も敗退している。



カンチュンナップ北壁

(点線は2019年イギリス隊の最高到達地点、写真：2019年イギリス隊遠征報告書より)

登山計画書

BCより望むカンチュンナップ北壁(右)

<点線・登攀ルート>

(2019年イギリス隊遠征報告書より添付)

1、計画概要

クーンブヒマラヤに鎮座する未登のカンチュンナップ北壁(6,090m)をアルパインスタイルにて初登攀を狙う。

また、今計画を今後のアルパインクライミングの糧とするためにプランBとして同じ山域のチョラツェ北壁等既成ルートの再登も視野に入れて計画を立てる。

※コロナウィルスの影響により計画は中止、または来年以降に延期となる可能性があります。

2、山域

クーンブヒマラヤ・ゴーキョ北部

3、日程

2022年4月上旬～5月中旬

4、メンバー

谷剛士 (40) カナダ・バンフ在住

山田利行 (36) カナダ・カルガリー在住

7、概念図



(写真：アトラストレックホームページより)

8、行程 (日本～日本)

38日間 トレッキング24日間、登攀14日間

※詳細日程は変更になる場合があります。

- 4/4 日本～カトマンズ 1日
- 4/5 カトマンズ滞在及び準備 1日
- 4/6 カトマンズ～パクディン 1日
- 4/7 パクディン～ナムチェ 1日
- 4/8 ナムチェ～ドーレ 1日
- 4/9 ドーレ～マチュエルモ 1日
- 4/10 マチュエルモ～ゴーキョ 1日
- 4/11 ゴーキョ順応 1日
- 4/12 レスト 1日
- 4/13 ゴーキョ～BC (偵察) 1日
- 4/14～15 レスト 2日
- 4/16 ゴーキョ～BC 1日
- 4/17～5/1 登攀予定(予備日含む) 14日間
(実質登攀3日予定)

- 5/2 BC～ゴーキョ 1日
- 5/3 ゴーキョ レスト 1日
- 5/4 ゴーキョ～ドーレ 1日
- 5/5 ドーレ～ナムチェ 1日
- 5/6 ナムチェ～パクディン1日
- 5/7 パクディン～ルクラ 1日
- 5/8 ルクラ～カトマンズ 1日
- 5/9～10 カトマンズ滞在 2日
- 5/11 カトマンズ～日本 1日

9、予算(仮)

16,670 USD/ 2,100,420円(為替レート2021/10/19日現在)

※金額はUSDにて表記しています。

航空券往復

(カナダ～日本～カトマンズ)
(仮) 3000

登山料

- ・カンチュンナップ 250/1人
 - ・チョラツェ(プランB)250/1人
- シェルパ代・保険 260
 サラリー 25/日×25
 トレッキング滞在費 20/×25

ポーター代A(2人)・保険 200

サラリー 20/日×14

国内航空代 (カトマンズ～ルクラ往復)・1人/360

シェルパ用国内航空代

(カトマンズ～ルクラ往復)・100

エベレスト国立公園費・35

クーンブ地域入場費・20

エージェント費用・150

現地滞在費カトマンズ・50/1日×5

現地滞在費(ルクラ～BC)・50/1日/2人×30

現地移動費(仮) 100

装備費(日本準備)(仮) 1000

装備日(現地)・300

食糧費(BC&アタック)・300

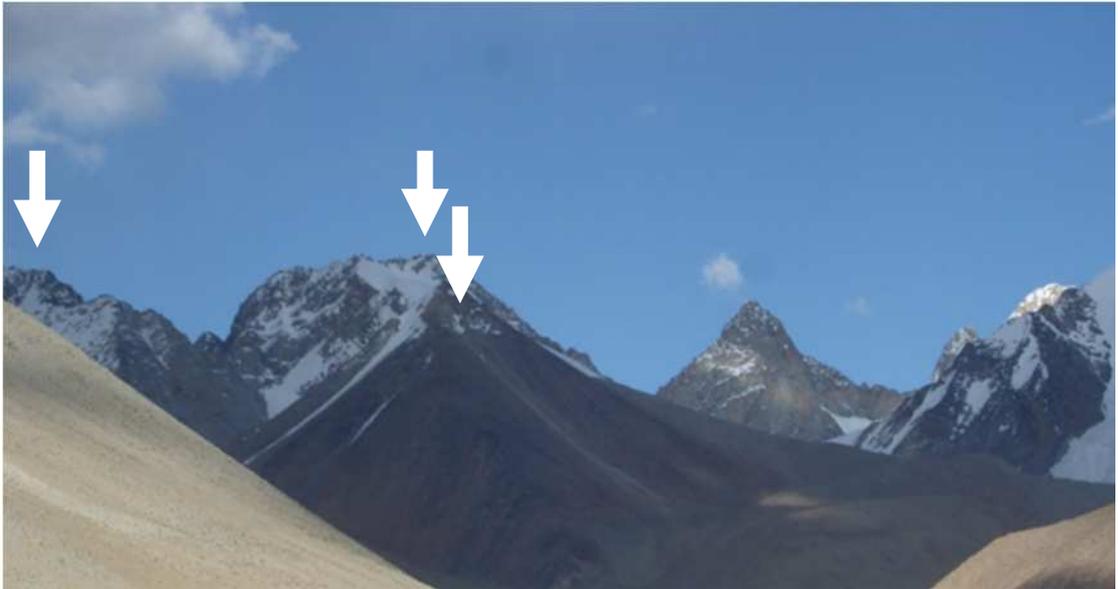
保険料(仮) 1000/1人

10・サポート企業(予定)

ミレージャパン株式会社/高所靴、ウェア
 株式会社モンベル/ウェア、キャンピングア、食糧

東海支部 60 周年記念第 14 次インドヒマラヤ登山隊計画

インドヒマラヤ登山隊 星 一男



目指す山域 左から P. 6443m、6481m (Merak)、P. 6225m

東海支部60周年記念第14次インドヒマラヤ登山隊2022は、コロナ禍が続く状況ではあるが計画を公表し、隊員を募集することとした。今回計画の山域は、第10次隊から13次隊が継続して登頂したインド、ヒマチャル・プラデーシュ州の北にある旧ジャンム・カシミール州東方地方のラダック連邦直轄領、パンゴン山脈地区に位置している。この地域は未踏峰も多く残されていて、その内の6000m級未踏峰3座の登頂を目指す計画である。

美しいパンゴン湖の南側にある山域は、沖允人元評議員の登山隊が2008年にマーン峰、2011年にマリ峰を登頂した実績がある。

来年1月に隊員が確定後、IMF(インド登山財団)へ登山の申請と仮許可を取得した後、隊員全員で出発に向けた準備を進める予定である。

今回の遠征も、①遠征隊を継続して出すこと②隊員の若返りを図ること③10次隊から継続している未踏峰・探検的登山を行うこと、が主たる狙いである。

今回の遠征計画は、沖評議員、高橋玲司支部長をはじめ海外遠征をされた先輩諸氏から多くの助言をいただき実現した。全員登頂を目指して、万全の準備で出発したい。

隊の編成

総隊長：沖 允人 隊長：星 一男

登攀隊長：栗木洋明 隊員3名程度募集する

登山期間：6月20日～7月20日

行程(予定)

1月中に隊員募集を終え、IMFへ登山許可を申請と現地エージェントと仮契約

決定後隊員会議を行う

3月～5月の積雪期にトレーニング山行

6月20日インドに向け出発

IMF(デリー)にてブリーフィングを受け正式な登山許可を得る

レーに移動し

6月末レーを出発しキャンプ地に移動

BC、C1、C2を設営

7月10日頃3座登頂を目指す

7月17日IMFに登山報告

7月20日日本帰着

登山費用：約450万円

現地エージェント

GREATER INDIA TOUR & TRAVELS

(New Delhi)

概念図



パンゴン山脈地区は北に避暑地として有名なパンゴン湖の南に位置している。○で囲ったエリアに目指す3座・Merak峰などが並んでいる。1月には説明会を開催する予定である。遠征を希望される方や、地域研究に興味のある方は、下記メールアドレスに連絡ください。

隊員を公募します

希望される方は下記までご連絡ください。

星 一男

連絡先

〒461-0073

安城市篠目町 1-17-6

E-mail

khoshi@katch.ne.jp



Google MapでBC、C1、C2予定地を示す

山田利行支部員、谷 剛士支部員 晩餐会ウィークに Zoom 講演出演

支部報編集委員長 星 一男



晩餐会ウィークの Zoom 講演の様相 下段左から山田利行氏と永田弘太郎理事、
上段右から谷 剛士氏と柏 澄子・松原尚之の各理事

今年も年次晩餐会は開かれなかったが、晩餐会ウィーク（視聴）として12月3日から10日まで9件の講演会が開催された。最後の日となる10日（金）午後8時から「知られざるカナダの山、岩、生活」と題してカナダ在住の国際山岳ガイド谷剛士支部員と現在の東海山岳連盟の再興時に委員長として活躍し、現在はカナダ在住のガイド山田利行支部員の講演が2時間、Zoomで行われた。カナダとの時差は17時間あり、朝の3時からの講演となったがカナダ在住歴も10年近くなり、闊達明朗な報告であった。講演は柏澄子理事の挨拶から始まり、講演の司会は松原尚之理事と永田弘太郎理事が進行役を務めた。最初に2人の略歴紹介があり、登山を基礎とした生活ぶりが画面の写真と共に紹介された。



トレーニング山行のマウントキッチナー北壁



マウントキッチナー北壁登攀

登山活動に移り、2人の登攀やガイドとして、雪の岩の世界の登攀、スキー、花の季節の山歩きなど、画面に映るカナダディアンロッキーやベースとなるバンフなどの美しい街並みなど見応えと共に聞き応えのあるものであった。同時に彼らのガイドとしての生活の場も垣間見えて、成長した姿は頼もしいものであった。

最後に、カンチュンナップ初登頂の意気込みと、今後は世界の山も目指したいとの意気込みを聞くことが出来たのは、東海支部員の一人として嬉しく思うのは、私一人ではないだろう。

第2回冬山フェスタ開催

総務委員会委員長 今津英一朗

第2回目となる冬山フェスタが、12月18日(土)・19日(日)の両日開催された。昨年の第1回は、1日だけの開催であったが、好評だったため今回は、2日間となった。

会場は、昨年と同じ「ウインクあいち」の7階展示会場である。東海支部は、これまでの夏山フェスタと昨年の冬山フェスタ同様、実行委員会の一員として特別協賛という型でその運営に携わっている。今回の冬山フェスタも講演(講座)と各協賛団体のブースでの展示である。

特に目立ったのは、山小屋の展示ブースであった。講演の中にも各山小屋の代表3人によるパネルディスカッションが設けられ、コロナ禍の中での山小屋運営の難しさなどが話題の中心であった。

その他のブースでは登山用具メーカー、行政機関のPRコーナー、保険関係、登山ルートのナビゲーションなどが出展、バラエティに富んだ展示内容であった。

今回注目されたのは、三重県警の依頼で設けられた三重遭対協のブースであった。昨年の一年間、鈴鹿の山で5名の遭難死亡者が出ていて、更には道迷い等の遭難も多発していて、それらの人達のほとんどが、愛知県在住者であったことから、その遭難防止の啓蒙のための出展となった。

東海支部も展示場の一角にブースを設け、冬山登山の相談、冬山体験登山の募集、支部友会や東海ユースなどへの入会勧誘を実施した。

1日目の18日の講座は、主に冬山登山の基礎知識、装備の種類と使い方、冬山の危険、冬山の気象など、やや堅めの題材が多かった。2日目は、一転、冬山の魅力や楽しさ、同じくカメラや映像ワークのポイントなど冬山を楽しむ講座が多かった。

2日目の目玉は、やはり野口 健さんの登場で、近藤謙司さんとのトークショーは、会場を大いに湧かせた。さすが野口さん、タレントだけあって講演のあと展示会場を一巡、東海支部のブースにも寄られ支部員との写



展示会場

真撮影(本号トピックス欄参照)にも気軽に応じられていた。

来場者は、およそ2,000人であった。夏山フェスタの来場者との違いは、冬山に興味を持つ人は当然のことだが、中には冬山経験者もかなりいて、これから山を始めようと考えている人(初心者)は少なく、それなりのレベルを備えた人が多く見受けられた。

2日間の冬山フェスタ、無事盛況裡に幕を閉じた。

尚、恒例となった夏山フェスタは、今年6月11日(土)・12日(日)の両日、ウインクあいちでの開催が決まっている。



多くの方が詰めかけた講演会場

みんな、この日を待っていた ～2年ぶりのブラインド登山～

ボランティア委員会委員長 前田隆久

みんな、この日を待っていた。笑顔が弾けた。会話もはずんだ。澄んだ青空と旬の黄葉は、再開したブラインド登山を祝福しているかのような高揚感で満たされた。

2020年春、委員会全ての公式行事を中止してから一年半が経っていた。今回の計画自体も一年半前のブラインド登山用に作った計画だ。感染状況が収まっているとはいえ、まだまだ油断ができない状況が続く中、なんとか開催にこぎつけた。ブラインド登山者6名、委員会、支援者19名の25名が参加しての山行になった。コロナの状況下、私たちよりさらに登山のチャンスが少ないブラインド登山者にとっては、待ちに待ったブラインド登山だ。

11月14日（日）コロナの状況下で、定員が6割弱（20名）に制限されている福祉バスと乗用車を使っての山行となった。8時に金山駅に集合、市民会館南側に移動してバスに乗り込み出発。各務原市の各務野自然遺産の森を起点に、金比羅山から、明王山、迫間山（城址）、大岩見晴台を周回するコースを歩いた。低山をつなぐコースとはいえ、アップダウンもあり、コロナで久々の登山となった参加者、初参加のブラインド登山者には歩き応えのある山行となった。



明王山山頂にて

各務原アルプス、低山とはいえ周囲に高山がなく、晴天と尾根歩きで終始眺望は良く、山々の黄葉とあいまって楽しい山歩きとなった。ブラインド登山者も、四感で季節を感じ



ブラインド登山の全員で

とりながら十分に満足できる山行だったようだ。

これから、このまま感染症が収束するか、さらに感染の波がくるのか、本原稿を書いている時点ではなんともいえないが、願わくば2022年の春には以前の委員会活動に戻れることを期待したい。SON愛知の知的障がいの子たちとも、自由ヶ丘幼稚園の子たちとも、家庭裁判所の少年たちとも、楽しく山へ登りたい、笑顔に会いたい、コロナ前のように……。

最後に、今回が初参加。全盲で男性の方の登山後の感想メールを紹介する。

「先日はありがとうございました。楽しく最高でした。当日まで不安もありましたが天気も良くみなさんのおかげで楽しかったです。

細かな気遣いや声かけなど、『段差があれば30cmぐらいの高さだよ』とか、道が狭ければ『私の後ろをついてきて』など、風景や木々の説明、知らないことばかりで、あの山行ったとか話をされていて、いいなあーで、後半ちょっと膝が痛くなって迷惑をかけてしまいました。

今度についてはいけるようにしようと思いましたが少し歩いてきました。そういえば、今思えば匂いがなかったなあ、次回まで長ーいと思っています。本当に先日はありがとうございました。」（原文のまま）

このメールの感想が、ボランティア委員会全員の力となっている。

SDGs と猿投の森づくりの会の活動（1）

猿投の森づくりの会代表 和田豊司

SDGs (Sustainable Development for Goals) とは“持続可能な開発目標”として国連をはじめ全世界に展開されている。具体的な目標として17項目が挙げられている。猿投の森づくりの会（以下当会という）は健全な環境林作りを目指して活動しており、SDGsの17の目標と多項目にわたって合致した活動を行っている。SDGsの目標と当会の活動を対比しながら次号と2回に分けて紹介する。



東大演習林での間伐

1. 健康であること（項目3 / 17）

県有林“やまじの森（猿投の森）150ha”は保健保安林に指定されている。これは経済活動として杉、檜、松などを植林（人工林）



観察道の安全確保のため枯死木除去

し材木（用材）として利用する目的の森ではないことを意味する。明治時代からの禿山の復旧や拡大造林（税金をたくさん投入して植林していた）の時期には1/3ほどの面積に松が、1/3には杉、檜が植えられていた。我々の活動が開始する時点で松は

マツクイムシの被害や植生遷移でほとんど消滅し、杉、檜などの人口林は枝打ちや間伐がなく放置されていたためモヤシのような細くて背の高い材木として活用できない森になっていた。

保健保安林であることと、生物多様性のある環境林を整備するという当会の活動目標が一致し利活用協定を県と交わし活動が始まった。東海地区の多くの方が林内を登山、散歩、トレイルラン、自然観察などで訪れて頂くようになり健康作りや保養のために貢献している。当会として自然観察道（遊歩道）を18年にわたり整備するとともに、林内を訪れる方が迷わないよう案内看板の設置も行った。

2. 質の高い教育（項目4 / 17）

森づくり作業と共に自然を学んでいただくために2017年から「せと環境塾」「なごや環境大学」などの講義を受け持ち東海地方の方々に森の成り立ち、森の恵み、水源、生物多様性などについて森の中で教育を行っている。自然に触れる機会の少ない名古屋を中心とした市民に環境教育を行っている。

“蛇口の向こう～水源の森へ”、“森からのプレゼント～腐葉土・飾り炭・シイタケづくり体験”など森の機能や森のめぐみについて実体験で教育している。

当会自身の質を高めるための教育も“わいがや講座（コロナで休止中）”などで資質を高めると同時に森林インストラクター、チェーンソーなどの資格取得を推奨している。

3. 清潔な水と衛生（項目6 / 17）

作業フィールドの猿投の森そのものが瀬戸市の水源であり取水口もある。環境林として健全な森づくりが質の良い水源維持となっている。ちなみにこの水源・取水口からとりいれられた瀬戸市の浄水は水源から浄水場を経て蛇口まで動力は一切用いない（消毒のために塩素注入を除いて）配水系となっていない。

次号では項目7 / 17、項目11 / 17、項目13 / 17、項目14 / 17、項目15 / 17、項目17 / 17を紹介する。

ゴザフェス 2021 と秋の総会

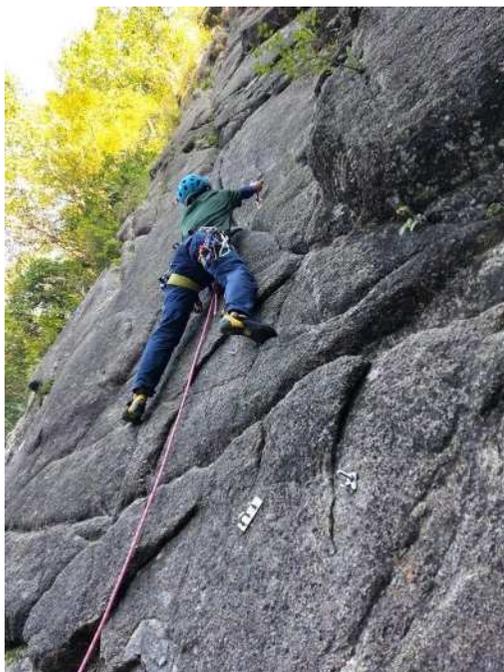
東海学生山岳連盟委員長 丸岡春香

2021年10月2日、3日にゴザフェスを行いました。今年のゴザフェスは例年に比べてかなり小規模なかたちでの運営となりました。

土曜日からの参加者は5名ほどで、藤内小屋で学生同士の交流をした後、日向小屋に呼んでいただき、青年部の方たちとお話することができました。

日曜日は10人の参加者で、御在所岳登山班とクライミング班に分かれて活動しました。登山班は中道から山頂を目指し、クライミング班は講習壁と一壁でそれぞれクライミングをしました。最終的には全員が講習壁に集合し、クライミング初体験やリード初挑戦の学生と講習をしました。今まで学生連盟の活動に参加したことがない学生も数名おり、新しい出会いがあったことは非常にうれしく思います。

今回は準備に十分に時間をかけられず、またOBの方にお声がけすることもできないまま開催に至ってしまいました。来年度以降は、学生連盟の活動を盛り上げ、今まで通りのゴザフェスができるよう、尽力したいと思います。



クライミング班スナップ



クライミング体験に挑む

丸岡新委員長の挨拶

この度、新しく東海学生山岳連盟の委員長になりました丸岡春香です。日頃より学生に対しご支援、ご指導していただきありがとうございます。

私は、小学生のころ親に連れて行ってもらった登山が楽しくて、高校では山岳部に所属していました。そこで初めて登ったアルプスの山々の美しさに感動し、大学ではもっといろんな山の表情が知りたいと思うようになりました。大学に入り、学生連盟の存在を教えてもらい、先輩方のご指導のもと冬山にも挑戦することができました。とても良い経験でした。また、クライミングや沢登りなどにもさらに励みたいと思っています。

今後はまず学生連盟の再興を目指し、私が先輩方から教えていただいたことを後輩たちに教えていけるように精進したいと思います。様々な面で未熟なところがあると思いますが、今後ご指導のほどよろしくお願いたします。（総会12月9日支部ルームにて開催）



秋の総会で集合写真

技術向上委員会

「道迷い遭難を防ぐ」登山講習会に参加して

支部員 林 須美子

私がこの講習会に参加したのは、先日、友人と個人山行でイブネ・クラシへ行った際に道迷いをして地図読みに自信を失いかけていたことがきっかけでした。

このような講習会は「地図読みとコンパスワーク」ありきかと思いきや、講習会開始早々からGPS地図アプリの利用法やGPS軌跡の重要性を教えていただきました。(清水さんの軌跡の数にびっくりです!) また、登山届アプリ(コンパス)を今まで利用しておりませんでした、管轄の警察へ登山届を提出するより、よっぽどか遭難時の対応が早くでき、生存救出の「72時間」の壁を回避できることが出来ます。下山しない場合、家族へもその旨自動送信してくれるので紙の計画書を残していくより有効です。参加者皆さん、食い入るようにGPS地図や登山届アプリについて質問され、山行出発時間が押してしまうほどでした。

今回、講習会山行の蠅帽子嶺は全く聞いたことのない山で調べてみると登山口すぐに膝ぐらいまで水量のある渡渉があるとの事でしたが、当日は水量もそこまで深くなく^{ふよはき}脹脛程度でした。それでもここまで深い渡渉は初めての経験で水流の強さに驚き、今度、渡渉のある山行時に渡れるかの判断材料となりました。無事全員渡渉し終え、靴を履き替えてから先頭を順に変わりながら登り始めましたが、事前の情報通り山自体十分な整備がされておらず、数少ない赤布も見落としがちで、倒木、獣道、尾根分岐などの迷いやすい箇所では度々、歩を止め説明していただきつつ、GPSおよび地図確認をしました。

ほぼ予定通り山頂に到着し昼食をとった後、蠅帽子峠へ向かいましたが道も荒れており尾根分岐もわかりづらく、一人ではおそらく道迷いしそうなルートでした。下山では登りで気が付かない尾根に入ってしまう道迷いしやすくなるので、こまめにGPSを確認しつつ地図と地形を照らし合わせながらの確認も怠りませんでした。もし遭難してしまった際の対処方法として携帯電話が通じるポイントがあればそこを動かない方が救出の可能性が高いとのこと。



登山口での渡渉の様子

谷では通じないし、尾根上でもところにより通じないこともあるとのこと。肝に銘じておきます。

また、これからの季節

、日没が早くなってくるので普段から1時間ほど余裕をみて計画することも下山時の日が陰る頃にお話されていました。

下山後には他にも情報として予備バッテリーは日帰りでも必ず持参すること。特に単独登山では地図やコンパスは予備も持参することも教えていただきました。

溢れんばかりの盛り沢山の対策ポイントを教えていただきましたので情報を整理しつつ今回の経験をふまえ、今後の参考に繋げて参ります。

<講師コメント>

山岳ナビゲーションのポイントは、(1)現在地を知る(2)地図を読んでルートを設定する(3)ルートを維持するの3点です。そのうち(1)現在地把握と、(3)ルートを外れていないかの確認にGPSは大変有効です。例えば、登山道のある山のグループ登山なら、GPSを登山開始時点から起動させておけば、グループからはぐれた時、リカバリーの強力なお守りになります。しかし、GPSは画面が小さいので行程全体の把握がしにくく、(2)ルート設定には不向きで、地図が不可欠です。また、地形があいまいな場合や視界不良の場合、GPSでは(3)ルート維持が難しく、磁石が不可欠です。登山においては、地図・磁石を用いた読図が基本となることを忘れずに、GPSや登山アプリもぜひ活用してください。

技術向上委員会委員長 清水克宏

追 悼

尾崎祐一さんを悼む

尾上 昇

支部員の尾崎祐一さんが、去る11月14日身罷られた。尾崎さんのご長男信介氏からの連絡である。恐らく尾崎祐一さんと聞いて、直ぐぴんと来る支部の関係者は少ないのではないだろうか。

1970年東海支部が送ったマカルー登山隊に参加。その南東稜からの初登攀に田中 元さんと共に頂に立ったもう一人の人。と言えば、ああ、あの人かと頷かれ得よう。

東海支部のマカルー登山は、ヒマラヤバリエーション時代の先鞭を付けた記録として、今も世界のヒマラヤ登山史の一ページを飾っている。更には、登山計画立案から計画実現までの準備の過程、そして実際の登山活動まで、同じ隊員の一人であった私が言うのも変な話だが、実に聞きしに勝る困難の連続であった。

特に尾崎さんが携わった登頂に係わる最後の5日間の苦闘は、まさに劇的という言葉以外にない出来事だったのである。そのドラマの主人公の一人が尾崎祐一さんなのである。

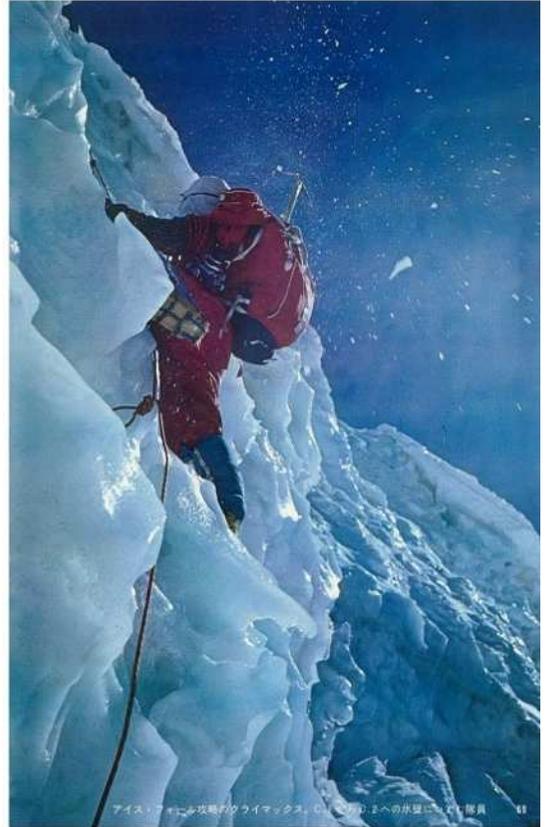
私もマカルー隊員として尾崎さんと遠征を共にしたが、小柄でいつも穏やかで笑顔の絶えないお人柄から、あの凄まじいエネルギーが体のどこに潜んでいるのか不思議でならない。誰しもが、想像できないだろう。

出自は、岡山は倉敷の醤油製造業「塩田屋醸造場」（文化9年1812年創業）の御曹司である。大学は、成城大学である。と来れば、まさにお坊ちゃまの典型である。

その尾崎さん。登攀に賭ける執念と卓越した岩登りの技術は、超一流と言ってよい。それは、一体どこで生まれたのであろうか。言うまでもなく、成城大学山岳部でである。

尾崎さんが在学していた頃の成城大学山岳部は、橋村一豊さんを頂点として日本の積雪期の初登攀記録を次々と打ち立てていた先鋭集団だったのである。

当時、岩壁の登攀は、社会人山岳会の独壇場で大学山岳部は歯が立たなかった。その中であって、成城の山岳部だけは、社会人山岳会が、一目も二目も置く存在だったのである。



アイスフォールに挑む尾崎さん

成城大学山岳部の残した劔岳や穂高岳の積雪期の記録は、今も粲然と輝いていて、その一翼を荷負っていたのが尾崎祐一さんその人である。

尾崎さんの主な初登攀記録を上げてみよう。

昭和34(1959)年 冬 滝谷C 沢右俣奥壁

(尾崎祐一・橋村一豊)

昭和36(1961)年 冬 劔岳チンネ左方カンテ

(尾崎祐一・長沼雄志)

昭和36(1961)年 冬 劔岳池谷右俣中央稜

(尾崎祐一・山田英二)

昭和36(1961)年 冬 前穂東壁東稜

(尾崎祐一・山田英二)

昭和37(1962)年 夏 前穂北尾根四峰正面壁

成城大ルート (尾崎祐一・橋村一豊)

その他初登攀ではないが、穂高や劔の難ルートの積雪期の登攀記録も多く残している。これだけ見ただけでその実力と登攀への凄まじい執念と岩登り技術がいかにか秀れていたか

が、知り得よう。

本当は尾崎さん、お坊ちゃんどころか、とんでもない野人の類なのではないであろうか。

私は、マカルー遠征中に尾崎さんの秘めた人間性、つまり野人であるが、その野人的な姿を垣間見た。

マカルーのベースキャンプでの出来事である。ベースキャンプには、食糧用として生きたヤギー頭とニワトリ十数羽が上がっていた。適宜潰して隊員とシェルパの食糧となり最奥のヒマラヤ山中の貴重なタンパク源である。

ある日、ヤギが潰されることになった。ククリと言って、ネパールの高地住民が常備している蛮刀で、それでヤギの首を刎ねるのである。丁度日本のナタを一回り大きくしたようなもので刃が鋭く研いである。

それを「俺にやらせろ」と尾崎さんが名乗り出たのである。

シェルパが二人、一人が尻尾を持ち、もう一人がヤギの角に縄を掛けて引っ張る。首を伸ばしたところをククリでバッサリと首を刎ねるのである。

尾崎さん気合い鋭くククリを一閃するも首が落ちない。あせって二度三度振り下ろすが脛骨で止まってしまう。ヤギは苦しがりて暴れる。凄惨な場面である。見かねた別のシェルパが、尾崎さんのククリを取り上げ、一撃のもとに首を刎ねた。さすがに尾崎さん、青い顔をしていた。

その日の晩飯は、解体されたヤギ肉の炊き込み御飯であった。私は、昼間の場面を思い出したのと、そのひどい獣臭で一口も食べられなかった。

尾崎さんは、と見ると、旨そうにぱくぱく食べているではないか。成城大山岳部の本当の姿を見たような気がした。そう言えば大将の橋村一豊さんからしても、決してお上品の部類には入らず、野人・野蛮の類に属しよう。むしろ私の方が、余程育ちが良い。

マカルー隊最大のクライマックス、それは、尾崎・田中両隊員の成した超人的な頂上アタックの3日間の奮闘振りに尽きる。第一次攻撃隊が頂上直下で断念。8400m付近で着の身着のままビバーク。遭難寸前の2人を尾崎さん、田中さんが発見して救助。キャンプ6に収容したのが午後6時過ぎ。そして介護。

その後、たった2時間の仮眠を取っただけでアタックに出発。厳しい登攀の末、頂に立つ。夜通し下り、キャンプ6に戻ったのが午前3時であった。2日間ほとんど睡眠を取らないままの25時間連続行動でマカルー南東稜の初登攀の栄冠を勝ち取ったのである。

この余りにも超人的な行動に対して、日本の著名な登山家の中から、登頂を疑問視する発言があった。それ程までに凄まじい行動だったのである。

今年1月16日(日)東海支部創立60周年の記念の集いの講演に、延び延びになっていたマカルー50周年の記念講演(講師不肖筆者)がある。現存している隊員にも参加を呼び掛けている。

尾崎さんは、とてもこの集いに期待していて、早々と参加の意向を示されていた。久しぶりの仲間(隊員)との再会を楽しみにされていたのである。登頂者として一言ご挨拶と思っていたのにそれが叶わず残念としか言いようがない。尾崎さん自身もさぞや無念であったに違いない。



尾崎さん愛用のピッケルシャルレ(フランス製)
共に頂に立つ

当日には、1年半前から尾崎さんよりお預かりしていたマカルーで使用した装備類が展示される。今は、それらは遺品となったが、是非、参加者各位におかれては、尾崎隊員を偲びながら見ていただければ幸甚である。

マカルー後の尾崎さんであるが、1973年母校成城大のジャヌー登山隊の偵察隊に参加。以降は、厳しい登山の世界からは身を引き、もっぱら社業に専念、傍ら地域の様々な活動に参加活躍されていたと仄聞している。

また一つ、東海支部のレジェンドが、そして私の仲間の一人の光が消えた。世の習いとは申せ、実に淋しい。衷心より尾崎さんの御霊に哀悼の意を捧げる。令和3年11月14日逝去。享年82才。

回想の登頂記 ① モン・ブラン

支部員 杉浦吉治

1999年9月11日午前8時15分、ついにヨーロッパ・アルプス最高峰モン・ブラン(4,807m)の頂上に立つことができた。しかも、妻とともに無事に夢を叶えることができ、感激のあまり目頭が熱くなった。



シャモニ側から仰ぐモン・ブラン

この年の2年前、初めて海外の山・スイスのブライトホルン(4,165m)へ登ったとき、同行の仲間が、「杉浦さんならモン・ブランでも登れますよ」とお世辞と分かりながらも刺激を与えてくれた。ひょっとすると私たちでも登れるかも、と希望が湧いてきた。そして実行に移そうとした。

それからというもの、モン・ブランに関する多数の資料を収集した。先の仲間に私たちの計画を知らせたところ、現地で入手されたであろう詳細なモン・ブラン山域の地図を送ってくれた。これでますます達成への意欲が高まった。

何事も、したい、なりたいと思っているだけではそれを達成することはできない。ましてや、未経験の高峰の登頂となると、情報収集のみならず、体力が肝心である。

この10年前から体力維持のため週1回市営プールへ妻と通っていた。すでに車をやめてから20年になるが、どこへ行くにも自転車である。お陰で毎年受診していた半日ドックでは、肺活量は同年齢の標準以上だと判定された。しかも、驚くことにそれまでの3年間は僅かではあるが増加しつつあった。

前日 さて、モン・ブランであるが、登山者はアタック前に雪上歩行訓練と高所順応を兼ねて、現地のプロ・ガイドによるテストを受けなければならない。エギーユ・デュ・ミディ針峰(3,842m)から、仏・伊国境のエルブロンネル(3,462m)まで、ヴァレ・ブランシュ氷河とジュアン氷河の上を約7km、3時間で横断しなければ失格となる。12本爪アイゼンとピッケルで確実な、かつかなりのスピードの歩行が要求される。アップ・ダウンがあるとはいうものの、7kmを3時間なら普通の歩行スピードの約半分であるが、この標高では空気が薄く実際はきつい雪上歩行である。途中、危険なクレバスがいくつかあるということで、ガイドとザイルで結ばれての歩行である。彼に引っ張られるようにして、なんとか3時間15分ほどで無事ゴールに到達し、テストに合格。翌日からのモン・ブラン登山が許可された。

第1日目 シャモニから車でレ・ズーシュへ。ロープウェイでベルヴェューへ上がり、登山電車に乗り継ぎ2,386mのニー・デーグルへ。ここからガラ場を登り3,167mのテート・ルース小屋へ。次いで落石の多いクーロ・ワールを急いでトラバースする。つぎに本日の最難所、平均傾斜度70



ヴァレ・ブランシュ氷河上にて

度以上の急峻な岩壁を高低差540m直登。ガイドは長い脚でスイスイと登って行くが、コンパスの短い私と妻は足場を思うように確保できず、登攀の基本である三点確保ができない。また、やっとの思いで、数メートル登った途端にヘルメットに岩をぶっつけること度々。



仏・伊国境のエルブロンネルから眺めるモン・ブラン
ヘトヘトになって最後の壁を攀じ登ると、ここが今日の宿泊地グーテ小屋(3,782m)。本日の歩行時間は、休憩時間を含めて6時間強。少しガスが出てきて眺望が効かないので小屋へ入りザックを整理し、夕食まで横になって休息。前夜は緊張のためかあまり眠れなかったのと、登攀の疲労でウトウトとしたところで夕食。あまり食欲がなかったので少し食べて、スープとデザートプリンだけは平らげる。好きなワインを飲みたかったが、高所障害が出るといけななので我慢して、翌日にそなえて早く床に就く。

第2日目 1時25分起床。身支度をして食堂へ。この日は夏並みの混雑とのこと、席が空くのを待つ。パンと紅茶の軽食を短時間で済ませ、外へ出ると満点の星空。胸が高鳴るのを抑えることができない。寒さと混雑で準備に手間取るも、ガイドと妻そして私の順でアンザイレンし、2時55分いよいよ出発。キュン、キュンと雪面に食い込むアイゼンの音が快い。早くスタートしたパーティのヘッドランプの灯が点線となって実に美しい。

高低差約550mのヴァロ避難小屋(4,362m)までは、なんとかガイドのペースについて行くことが出来たが、このあたりから苦しさが増してきて、ピッケルにすがって腹式呼吸を1回しないと次の足が出ない。空気が薄く運動を鈍らせる。まだ夜明けは遠く、少し意識が鈍くなる。しかし、車の運転と異なり、「スピード＝安全」が鉄則のヨーロッパ・アルプスの登山では、標準時間を守れない登山者は途中でもガイドから下山を命ぜられる、と予備知識をた

き込まれていたもので、必死になってついて行く。

やがて、漆黒の空から地平線がうっすらと現れ、遠くの山々がシルエットとなって薄紫色の空に浮かび上がってくる。この神秘的な光景はいつの山行でも感動することだが、今回はいままでのそれとは随分違う。喘ぎあえぎで苦しくても感動は倍以上である。ヘッドランプを消して気持ちを引き締め、急峻なナイフ・リッジを慎重に一步そしてまた一步と高度を上げて行く。雪がパウダー状で、アイゼンが思うように効かない。苦戦を強いられるも、最後の突起(4,740m)を経て300m。ついに8時15分頂上へ到達。所要時間5時間20分で標準時間を20分オーバーしたが、これくらいは許容範囲であろう。

頂上からは、グランド・ジョラスなどのモン・ブラン山群、東方は遠くにマッターホルンをはじめとするスイスのヴァリス山群の峰々が反逆光で凜然と聳えている。南に目を転ずれば、イタリアの山々の美しい稜線が朝日に輝いている。夢のような光景である。他のメンバーと登頂の成功を喜びあい、記念写真を撮る。

短い滞留時間ながら、この感動的な光景を夢中でカメラに収める。

帰路は2日間かけて登った標高差2,435mを一



左から、グランド・ジョラス、メール・ド・グラス(氷河)、シャモニ針峰群、モン・ブラン

気に下り、夕方早い時間に無事シャモニのホテルへ帰ることができた。

予備日2日の撮影トレッキングを含めて1週間すべて好天に恵まれ、まことにラッキーで感動的な山行であった。

TOPICS 1

「亀の会」が新聞に!!

今朝(10/29)眠気まなこで朝刊に目を通していた。すると記事中に登山者の写真と日本山岳会の文字が目飛び込んできた。中日新聞の県内版である。読んでみると東海支部の「亀の会」に関する記事であった。米寿の石田好子さんにあやかって、俺も卒寿まで山登るぞ。(〇生)

**吉祥山頂で
長寿の祝い**
日本山岳会「亀の会」

卒寿、米寿などを迎えた登山愛好家を祝おうと、日本山岳会東海支部「亀の会」による「お祝い山行」が二十八日、豊橋市石巻西川町の吉祥山(二三八二㍎)であり、県内などの二十八人が参加した。

原則六十五歳以上が入会する亀の会は二〇〇八年に発足し、ゆっくりしたペースでも楽しめる登山を定期的に企画してきた。発足当初は「八十歳まで山歩き」を目標に掲げたが、会員の高齢化とともに八十歳は通過点に。お祝い山行は年一回実施しており、今回は新型コロナウイルスの感染拡大で中止となった昨年の分も合わせ、卒寿一人、米寿一人、傘寿六人を祝った。

参加者はペースを合わせ、約一時間半で山頂に到達。米寿の安城市の石田好子さん(ハモ)は「この年まで登れるとは思っていなかった。卒寿まで頑張りたい」と話した。

山頂に到着した参加者
豊橋市石巻西川町で

TOPICS 2

野口 健さん 東海支部ブース を訪問!!

冬山フェスタ(P8 参照)の開場の一角に東海支部のブースが設けられている。冬山登山や装備の相談、体験登山の案内コーナーである。19日午後、講師として来場していた登山家の野口 健さんが展示会場を見学。その折、東海支部のブースを訪れたもの。しばしの間、居合わせた支部員との歓談の場となった(写真中央 野口さん)。
<編集委員会>





東海支部の蔵書からの一冊③〇

図書委員会委員長 石田文男

『未踏の岐阜県境800キロを歩く』

著者・井上孝二 他大垣山岳協会員

編者・高木泰夫 村田正春 犬養進

この書を乱読してみてもつくづく想うのは「岐阜は山の国である」。

《ここに岐阜県境800キロを完踏しました、私どもの会員によって1997年から5年の歳月と延べ900余人を動員して完遂することが・・・。一般道路を歩いた距離は200キロ、残るところはほとんどが人跡稀濃密なヤブに覆われて・・・、ヤブの煩わしさを避けようとすると・・・残雪期ということになります、山村の過疎化が進み除雪がほとんど行われない状況・・・。目指す県境稜線長いアプローチを歩かねばなりません、ときにはそれだけで一日を要するようなことも・・・。しかし幸い会員諸君の情熱と努力によって完踏することができた・・・。》

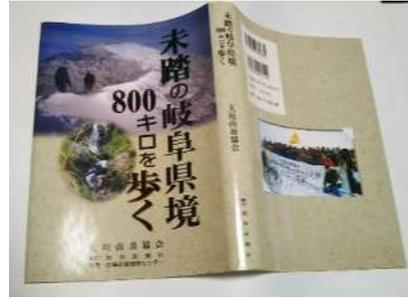
この、「はじめに」を読んでいると私自身、碧い空に円弧を突き上げている真っ白な尾根を、ただただひたすらに登って行ったこと。また、あるときは腰までのラッセルと視界のない稜線を黙々と山頂目指して。こんなことが彷彿としてくる。

ただ、道路事情と情報が激変した、さらに気候の変動した今、ここに紹介されている山々への感覚・認識・接点がかか誤解されがちになるかも知れない。

伊吹山集中登山から始まり、北へと進み両白山地を連綿といきながら白山を越えて万波高原を伝い、アルプス中枢の高峰群。阿寺、恵那、矢作川上流へと南下してから内津峠、坂祝、養老、霊仙山へと西進し伊吹山に繋いでいる。環状になっている94地点間の踏査年月日・ポイント点間のコースタイムの詳細は参考になるところ大である。

興味惹かれる山が多い中、特に引きつけてやまないのは何と言っても残雪を豊富に抱く両白山地と白山北方稜線の峰々である。どの山にも思い深く、若き日に夢中になってステップを刻んだ山・・・がずらり。

中でもこんな一節には魅了さてやまない。



「・・・と
ころがである。今まで
なかった雪
庇がなんと
10m幅で宇
斗股方面へ
と続いている
ではない

か。こんな雪庇をみたのは久しぶりだ。歌でも歌いたいような気分である」〔20：滝波山～油坂峠収載から〕。(3月18日、入山2日目。テント担いでワカン歩きの行動日4日間)。どんな雪庇なのか、私自身の未知の領域に入り込んでみたい思いに駆られたものだった。

小秀山を盟主とする阿寺山系の主稜上の山も魅力的。支部に馴染み深い小秀山・白草山の他、井出ノ小路山・三国・奥三界など数多。そして恵那山周辺にも焼山をはじめ良い山がいくつもあ

これから雪山を目指していく人達には、残雪を利かしたこれらの山城を是非とも薦めたい。また、阿寺山系、恵那山周辺は沢登りも存分に楽しめ、ルート採りは無数・自在だ。因みにここに掲載されている写真の70%は雪の山である。トレースも残雪期が多い。さらに挿入されている概念図にも好感もてる。それはどのルートからどう登っていくか、と
思いが馳せていくからだ

《・・・、こうしてみると、他の山岳団体とはやや趣を異にする事業を重ねてきたことを・・・。それは会創設以来、一貫してパイオニア・スピリット具現化を会是としてきたから。・・・当会の顧問をお願いしてきた今西錦司先生の警咳に接する中で「アルプスよりは奥美濃を」とご教示いただいたことの実践からの所産と言ってよいだろう》と、「あとがきに代えて」で述べられている。

A5判323頁

発行：2003年8月1日

発行所：岐阜新聞社

東海岳人列伝(21)

岩と雪と酒を愛した

真のアルピニスト・橋村一豊

編集委員 西山秀夫

橋村さんは若い頃から晩年まで活躍された割には自著を遺されなかった。資料は事欠かないが集成するには苦勞した。日本の登山界を視野にいれても相当な理論家であり、且つ実践家であった。健啖で且つ健筆であった。

橋村一豊さんの記憶

以下は私のブログに書き留めた記憶の一端である。2019.10.23

「今夕は支部報の編集会議に出席。その席で古参会員の橋村一豊氏の死去を知った。「岳人」や「山と溪谷」誌などのバックナンバーをよんでいると記録報告が目についた往年のアルピニストである。支部活動を通じて警咳に接すること多々あった。

芳野満彦『新編 山靴の音』（中公文庫）にも成城大学山岳部の学生として出てくるから相当な登山技術の登山家であった。劔岳や穂高岳周辺の初登攀の記録の持主とも聞かされた。

東海支部との出会いは創設当初の海外遠征に参加したというから古い。1965年10月～1966年3月のアンデスのアコンカグア峰(6,959m)である。しかし、大企業の会社員だったから生活の拠点は東京だった。定年後自由の身となり、豊田新線の三好付近に住まわれていた。支部ではもっぱら中高年になってから始めた登山教室修了者の新人の登山指導に熱をいれていた。岩登り、ルートファインディング等。

それが一段落すると森林インストラクターの資格をとり「猿投の森」を立ち上げた。しかも法人格を取得する手続きにも精通していたのは会社員時代の事務能力の高さを示す。

愛知県の県有林の北向きで育ちが悪い部分の植林を伐採し、そこに落葉樹を植えて自然を愛する人らの憩いの場を造成する試みである。今は見事な雑木林になっている。

過去の支部報にも多数の寄稿がある。「岳人」にも寄稿していた。中でも忘れられないのは、氷壁登攀のトレーニングの逸話だった。



2020.2.20「山」に寄せられた追悼文から

藤内壁でアイゼンの爪先が丸くなるまでやったという。そこまでやって初めて本格的な穂高や劔の氷壁に挑戦する自信が付いたというのだ。一にも二にも自信が付くまでやり通すわけだ。

多くの山仲間を山で失った。九死に一生を得る経験もあったという。生き残れたのは豊富な練習量が支えになったという。

晩年は認知症になり関東の老人施設で療養中と聞いた。狷介固陋なところはあったが、あれだけ知的な人物がなぜ認知症になるのか、不思議に思う。また酒が大好きだった。折があれば健筆をふるってもらいたかった。

来る10月26日には橋村氏が立ち上げたその猿投の森で、「森の音楽祭」が開催される。東海学園交響楽団による演目はL. v. ベートーヴェン / 交響曲 第5番 ハ短調「運命」作品67。トヨタ自動車合唱部の合唱もあるらしい。良い追悼の機会になるだろう。あの世に響け「運命」。

山に残した足跡

ここから各論に深堀するために合本版支部

報や『東海山岳』等に付箋を付けることから始めた。東海支部復帰後は、酒の話（支部報への最初の投稿）、ルートファインディングのすすめ（63歳 岳人N0633、2000年3月号）、中高年の山岳遭難（59歳 N064 1996年）等の論考がある。紀行としてはなぜか道志の山々、鈴鹿の山等があるがインパクトに欠ける。これは同時代を生きたから記憶がある。その後は森林インストラクターの資格を得て、猿投の森の活動へと傾倒していった。これは大成功であった。

しかし、何か物足りないのである。列伝であればマネジメントよりも一流のクライマーだった証を書きおきたい。そうだ、『異端の登攀者』、『目で見る日本登山史と日本登山年表』（共に山と溪谷社）に当たった。

前著は奥山章がリードしたクライマー集団の記録である。戦前はプチブルと言われた早稲田大、慶応大などの名門大学の山岳部以外の非エリートの登山家がある種の熱気をもって集うのである。

メンバーの吉野満彦は『山靴の音』という名著を書いた。文中には南山大の中世古隆司、成城大の橋村一豊などと紹介されるのは同じ会員だったからだ。これで登山家のつながりを知った。名古屋山岳会も多々登場する。東海支部では橋村さん以外に石川富康、湯浅道男（RCCⅡの会報の時報の編集者）の名が名簿に見える。

インターネットの検索では橋村語録がアップされていた。それぞれの橋村像が語られる。①「橋村一豊/ネパール、ヒマラヤの登山解禁とともに流行語になった感のある”ヒマラヤ鉄の時代”について考察を加える。

橋村一豊（成城大岳土鉄人会）の言葉を思い出す。「“山高きが故に貴からず”という諺はアルピニズムの世界には通用しない……ピッケルをスポスポとついて歩いてゆけば自然に誰でも頂上に立てるような山は、いくら8,000mクラスの山でも高級な登山とはいえない。」高瀬正人

② 訃報

昨日、日本山岳会刊『山・No. 897』を受け取った。ページを繰ると橋村一豊氏の訃報が掲載されていた。橋村氏は同時代に目覚ましい活躍したクライマーでことのほか印象深い

人物の一人である。

60数年前、大学山岳部で岩登りをやっていたころ購読していた山岳月刊誌『岳人』に彼ら（成城大学山岳部）の記録がたびたび掲載されていた。

北アルプス・剣や穂高の難しい岩壁を次々に制覇していった活動は驚異的であった。

当時大学山岳部員はバランスを主とした正統的な登攀スタイルが主流であったが彼らの記録を読むと登攀スタイルは当時の社会人登山者がやっていた強引とも思えるテクニックをとっていたように思えたが、その後のヨーロッパアルプスやヒマラヤの岩壁を登る基礎となった。

彼はクライマーとして異才であったことは間違いない。同年の岳人の訃報は、格別にさみしい！信山遊略



OMCビル東海支部ルーム開設の機会に来名し、高田光政氏（1934年～、タカダ貿易社長、名古屋山岳会）と鈴鹿の釈迦ヶ岳に登山した。

インターネットに残された橋村像

③ ブログ「絶景かな・クリクリ」から

成城学園を取り上げてみたので、登山界の成城大学山岳部の活躍を記さねばならないと思う。当時は多くの大学山岳部が積雪期に極地法や縦走合宿を展開するなかで、この山岳部は特筆すべき今でいうアルパインクライミングを目指した。半世紀も前、RCCⅡのメンバーが大活躍した初登攀時代の一角を輝かせた。

【成城大山岳部の主な積雪期登攀】は年譜に編集した。

RCCⅡに入会—水を得た魚のごとく

・RCCⅡの時報4月号に紹介

橋村一豊君 成城大学山岳部OBで、東男の代表たるにふさわしい天才クライマーである

が、現在関西勤務で年1回の会心なる登攀が
念願とか。

RCCⅡの時報6月号に投稿「同人消息」②
橋村一豊君(RCCⅡ気付セニョール・オクヤマ
への書信から)

「諸兄お元気ですか。アコンカグアの南壁は
成功しました。悪いとは聞き及んでいました
が流石に手強い奴で、40日に亘る苦しい斗い
でした。登攀の技術的部分は、例えば滝谷や
剣など、日本の冬山で鍛えた我々の腕で充分
こなせると思いましたが、只6000mをこ
えた高所でV級(注:5級)というような処が
出てくるので、非常に消耗的な登攀で、体力
的にとっても苦しかったです。ザイルは150
0m位フィックスしましたが、これを掴んで
のあえぎ、あえぎの荷上げは全く苦しい日々
の連続でした。



アルゼンチン、フエンテ・デル・インカ、アルゼンチン陸軍山岳部
隊兵舎にて、遠征隊員

中央が橋村一豊さん

今秋たけなわのメンドーザ市へ下り、名物
のぶどう酒を楽しんだり、美しいセニョリー
タを眺めたり(ばかりでもない)して休養中
です。次はパタゴニア・アンデスを探検し、
サンチャゴ経由船便で5月に帰国します。では、
アディオス。」

絢爛たる登攀歴

年譜

昭和12(1937)年 東京生まれ

昭和30(1955)年 1.2 北ア・前穂高岳、東
壁・Aフェース遭難(石原国利、沢田栄助、
若山五郎(岩稜会) ナイロンザイル切断
事件として社会問題になる。

昭和34(1959)年01.15 22歳 北岳バットレ
ス第四尾根Dガリー側フランケ(橋村一豊、
山口逸哉) ※年表: 上部フランケ(シュバ

ルツカンテ) (積雪期初登)

昭和34(1959)年03.25 鹿島槍ヶ岳北壁直接尾
根(橋本一豊、市川章弘) (積雪期初登)

昭和34(1959)年07.31 北ア・劔岳、源次郎尾
根I峰長次郎谷側・(成城大ルート初登)

昭和34(1959)年8.2 北ア・劔岳、源次郎尾根
I峰平蔵谷側上部フェース・成城大ルート
(初登)

昭和34(1959)年8.5 北ア・劔岳、池ノ谷右俣
中央壁・成城大ルート(初登)

昭和34(1959)年8.7 北ア・劔岳、チンネ北
面・hクラック・成城大ルート(初登)

昭和34(1959)年12.31 穂高滝谷C沢右俣奥
壁・雲表ルート(橋村一豊、尾崎祐一) (積
雪期初登)

昭和35(1960)年01.37 穂高滝谷ドーム西壁上
半(橋村一豊、市川章弘)

昭和35(1960)年 23歳 成城大学経済学部卒
業。在学中は山岳部に所属、劔岳や穂高岳
で数々の初登攀を記録。

昭和35(1960)年 3.23~3.24 谷川連峰・一
の倉沢、滝沢(第3スラブ敗退・1名遭難死
亡)(奥山章、橋村一豊らRCCⅡ)

昭和36年(1961)年 日本山岳会東海支部創立
昭和37(1962)年8.6 25歳 北ア、前穂高岳北
尾根四峰正面壁 成城ルート初登(橋村一
豊、尾崎祐一)

昭和39(1964)年 27歳

日本山岳会入会。紹介は田中栄蔵、岸田権
二、梶本徳次郎。

昭和41(1966)年 29歳 日本山岳会東海支部
アンデス学術遠征隊に参加。アコンカグア
南壁を第四登

昭和44(1969)年 32歳 RCCⅡ退会

昭和49(1974)年 37歳 成城大学ジャー
(現クンパカルナ) 遠征隊に登攀隊長とし
て参加。第二登を果たす。

平成9(1997)年 60歳 自然保護委員長就任
7年間で各地の森の勉強会を行う。特に原生
林を目の当たりに見て本物の自然を知ること
に努めている。『東海山岳』No8 芦生の
森を歩く総集編を発表。『東海山岳』No9
猿投の森に至った7年間を発表

平成10(1998)年8月 61歳

『東海山岳』No10に3年間で白山禅定道を踏
破した記録「白山の十二の道~分け入って

も分け入っても青い山(山頭火)」を發表。平成16(2004)年 67歳 東海支部に「猿投の森づくり」の会を立ち上げ、代表になる。令和元(2019)年10月 逝去。享年82才

以上は『日本登山史年表』(山と溪谷社)と他の資料から拾ったデータを編集した。話には聞くが実際のデータは知らなかった。

会社員のくびきから解かれて

『異端の登攀者』の中の時報には岩登りの分野のグレーディング特集があった。晩年の橋村さんはルートファインディングについての論考でも初級から上級までのグレーディングを試みている。要するに岩登りの分野においては初級の方は絶対に上級の岩場は登攀できないから身の丈に合う基準を設けるのだ。それを道迷い防止に応用したのも名クライマーの発想らしいと思った。

橋村さんは東京の人であった。成城大を卒業後は東レという一流企業の社員になった。30歳くらいで東レの社宅に転居したところまでは突き止めたがあとは不詳である。東レを調べると難関国立大、早慶、同志社という旧制名門大学卒を重点採用。有能であっても成城大学卒では出世は限界があったと思う。な

ので上級幹部止まりだったのだろう。17年前(43歳)から登山に復帰したと書いている。

酒豪番付を見ても分かるように相当な酒飲みだった。48歳から支部報に酒のよもやま話を投稿している。

RCC II 時報に掲載された酒豪番付一

橋村さんは東の前頭一枚目、原眞は西の前頭筆頭、湯浅道男は西の7枚目、横綱は深田久弥、西の関脇・藤木高領は藤木久三の息子で10月1日死去

晩年はみよし市に家を買って転居された。東海支部ではクライマー時代の天与の能力を活用されて幸せだったと思う。

人生の幸せは、会社員としての勤めを果たし、妻子を養いつつ、好きなことに打ち込む時間をどれだけ持てるか、初登記録のならば絢爛たる年譜を眺めての感想である。

会員の広場

同好会コーナー

スケッチクラブ

村中征也

《第7回作品展を開催》

スケッチクラブは、東海支部同好会として2013年7月に発足、9年目を迎えました。四季のスケッチ旅行を通じ相互の研鑽と親睦を図り、成果の発表会とし作品展を開催して来ました。

第7回は2月に予定しましたが、コロナウィルス禍で延期・再延期を重ね、漸く11月16日～21日に名古屋市市政資料館での開催に漕ぎつけ、大勢の皆さんに来館頂きました。厚くお礼を申し上げます。

16名・32点の作品は、山の絵の他、スケッチ旅行で訪れた土地や、思い入れの風景・生物等で、水彩・油彩・クレパス・日本画・ボールペン画と多彩で、「個性豊か」と暖かい評価を頂きました。市政資料館は地下鉄・市役所駅から10分、広く明るい展示室で、絵の談議やお喋りを楽しめました。東海支部の皆さんの来館は殊に嬉しく、登山の思い出を交えた語らいが彩を添えてくれました。



作品飾付後に全員で

《今後の予定》

作品展後の懇親会で、今後の活動を皆で話し合い、希望のスケッチ先を募りました。これを纏めて計画を決め、楽しい作画と交友を図って参ります。今年は嬉しいことに、2名の新しい仲間を迎えました。東海支部には、絵に興味をお持ちの方が多くと思います。皆さんの紹介をお待ちしております。

代表:石井 仁 事務局:村中征也・岩田智与子

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和4年4月~6月分)

- 4月2日(土) ☆ 募集開始1月2日
山域: 高見山地 山名: 局が岳
リーダー: 水野猛志
- 4月17日(土) ☆☆ 募集開始1月17日
山域: 鈴鹿山脈 山名: 竜ヶ岳
リーダー: 今津英一朗
- 4月23日(土) ☆☆ 募集開始1月23日
山域: 木曾谷・木曾山地
山名: 兀岳・夏焼山
リーダー: 高松信治
- 5月8日(日) ☆☆☆ 募集開始2月8日
山域: 阿寺山脈 山名: 小秀山
リーダー: 倉橋智司
- 5月14日(土) ☆☆ 募集開始2月14日
山域: 新城・高里 山名: 本宮山
リーダー: 磯部 隆
- 5月22日(日) ☆☆ 募集開始2月22日
山域: 度会郡大紀町 山名: 姫越山
リーダー: 村瀬恭平
- 6月4日・5日(土・日) ☆☆ 募集開始3月4日
山域: 天城山 山名: 万三郎岳・万二郎岳
リーダー: 村瀬恭平
- 6月4日(土) ☆☆ 募集開始3月4日
山域: 木曾谷・木曾山地 山名: 南木曾岳
リーダー: 高松信治
- 6月18日(土) ☆ 募集開始4月18日
山域: 岐阜県恵那市 山名: 笠置山
リーダー: 榊 将美
- 6月25日(土) ☆ 募集開始3月25日
山域: 赤石山脈 山名: 秋葉山
リーダー: 近藤政仁

山行対象者 支部友会員及び支部会員

申込み方法 ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。

- ・締切日 原則山行日1ヶ月前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- ・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

支部友会員数 令和3年11月末現在/47名

次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

第49回(予定)「鈴鹿に於ける山岳遭難の実態と対応」～登山届けの出し方～

日時: 2月15日(火) 19:00~21:00

会場: 支部ルーム

講師: 四日市西警察署巡査部長 小古真也氏

第50回(予定)「朝明ミーティング」朝明茶屋

日時: 4月9日・10日(土・日)

1日目分散登山(鈴鹿連峰)夕食バーベキュー
キャンプファイアー

2日目実技講習開催

第51回(予定)「2022夏山への誘い」

日時: 4月12日(火) 19:00~21:00

会場: 支部ルーム

山行リーダーが夏山コースを説明、参加者は当日募集受付します。

リーダー連絡先

尾上 昇 FAX: 052-832-3878

メール: onoe@onoe.co.jp

金谷正起 携帯: 090-9931-3600

メール: kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

榊 将美 携帯: 090-7237-4410

メール: m.sakaki@minds-consulting.jp

村瀬恭平 携帯: 090-4186-9876

メール: hoshizakari@docomo.ne.jp

田中 進 携帯: 090-9191-8666

メール: t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津英一朗 携帯 090-2616-7549

メール: imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 携帯: 090-9180-7245

メール: takass@yk.commufa.jp

高松信治 携帯: 090-3156-5268

メール: takama2nobu3@yk.commufa.jp

松本陽子 携帯: 090-7859-4031

メール: yo-kom@nifty.com

水野猛志 携帯: 090-5866-3781

メール: r34668@bma.biglobe.ne.jp

近藤政仁 携帯: 090-2183-8125

メール: vft55ud55@gmail.com

山田明美 携帯: 090-4083-7413

メール: yfd32147@nifty.com

倉橋智司 携帯: 090-8673-7180

メール: ilyt6by8@qc.commufa.jp

登山用具あれこれ②

いつもの登山靴の調子が悪い 体重の変化が登山靴の調子を悪くする

コロナ禍のため山に行く機会が減っていたのでしばらく登山靴を履いていなかった。久しぶりに登山靴を履いたら何か調子が悪かったと感じる人がいるのではないのでしょうか。少しの間に登山靴の経年変化が進むわけなど無いでしょうから何が原因なのか。それは登山靴に原因が有るのではなく、自分の方に以前とは違った変化が有るのではないかと考えられます。最初に考えられるのが体重の変化です。

いつも通り靴ひもをしっかりと締めて登山靴を履いて歩いたのに、山から帰ってきて足のつま先を見たら爪が黒くなっていた。靴を選ぶときに慎重に選び、今まで調子よく歩いていたのにこんなことに見舞われたというのは、これは体重が増えたせいだと推測できます。

成長して大人になったので足が大きくなることは無いのですが、実際は体重が増えることで足も大きくなります。足が大きくなるそのイメージは、体重が5kg増えると足のサイズが1サイズすなわち0.5cm位大きくなります。

逆なケースで、靴を履いて紐を締めても足の締めりが悪い。特に急斜面の下山時に靴の中で足が踊るように感じられて地面に足をおいて踏みつけるのがためらわれる。下る勢いをセーブするために強く踏ん張らなければならないのに靴底が滑ってしまうような不安感に襲われる。靴に足の力が伝わりにくく感じるなど、体重が減ったために足が小さくなって靴の中での足のホールドが十分ではなくなったためと考えられます。

このケースの場合、いつものように中厚の靴下を1枚履いて合わせていたとしたらさらにもう1枚薄手と中厚の間位の厚みの靴下を履いて靴の紐を締めてみてください。しっかりと締って調子がよくなったのが分かると思います。もう1枚履く靴下の厚みは何種類か用意して履き比べて調子を見る必要が有ります。靴下の素材はやはりウールがベスト。特にハードに歩くとほかの素材との性能の違いが表れてくるようです。

体重が増えたことで靴が小さく感じた場合には思い切って登山靴を新しく買い換えるか、山行等で体重を減らさなければなりません。体重が減って靴が大きくなってしまったといったケースは靴下の調整だけでうまく対応できます。

暫く山行から遠ざかっていた方々はご自身の体重の変化に目を向けて見ても良いかもしれません。逆の考え方で靴の感覚の変化が体重の変化だったと気が付くこともあります。靴を履くその時の足のむくみは1日の間にも変化が有るのですが、靴の中でしっかりと足をホールドできるよう靴ひもをきっちりと締めて靴を履くことが基本ですね。

装備委員会委員長 千葉泰丈



委員会報告

【亀の会】

卒寿、米寿、傘寿そろい踏みのお祝い山行実施

10月28日吉祥というめでたい名にあやかかった東三河の吉祥山382mでお祝い山行を実施した。

一昨年来の新型コロナの感染拡大で、長寿の節目のお祝い山行も延期の連続。今回も、変わりやすい天気予報の動向にやきもきしたが、当日は気温も風も穏やかな秋晴れの登山日和となった。

今回は、小出育功さんの卒寿（亀の会で初めての卒寿のお祝い。）、石田好子さんの米寿（3人目）、傘寿の祝いは毎年実施しているが、今回は昨年の傘寿祝いが繰り延べになっていた武内喜代子さん、今徳義宣さん、岡本昭子さん、今年傘寿を迎えた鬼頭良吉さん、谷口春美さん、光崎 晋さん計8人のお祝い山行である。



傘寿の武内喜代子さん、今徳義宣さん
岡本昭子さん、鬼頭良吉さん
谷口春美さん、光崎 晋さん

さんの心が華やいだ雰囲気だった。

卒寿を迎えた小出さんは、「行けるところまで行く」と、中間点近くまで登った。山の先輩の「ダウン寸前まで頑張ってはダメ。体力にゆとりのあるところで撤退せよ」の教えに従って、下山のタイミングを決めたそうだが、高齢者山行の心がけの手本を示された感じである。

米寿を迎えた石田さんは、歩きながら記者の質問に答えていた。記者は、自らは「はあはあ」言いながら同行取材されたようだが、「石田さんの元気に脱帽」との感想を残された。（トピックス欄参照）

人生百年時代、亀会員の健康寿命の目標 90歳



卒寿の小出育功さん
米寿の石田好子さん

2008年亀の会が発足したときのみんなの目標は、「80歳まで山歩きをしたい。」だったことを思い起こすと、卒寿や米寿のお祝い山行ができるなん

て、夢のようである。

今回の参加者29人のうち、傘寿以上の人が15名と参加者の半数を超えた。傘寿は、まさに通過点になり、目標は米寿、卒寿に変わってきた。

厚労省は、2017年（平成29年）人生100年時代の健康寿命延伸プランとして、2040年までに健康寿命75歳という目標を挙げているが、亀の会の健康寿命の目標は、とくに75歳を超えており、今や90歳である。

亀の会の山行の特徴は、草木を愛で、山の景色を味わいながらゆっくり歩き、時には写真を撮る山行である。立ち止まって景色を味わうのが、全体の歩行ペースの調整弁となっている。お昼は十分時間をとり、おしゃべりに花を咲かせる。他愛のない話に笑いが起こる。こうしたことが、歳を重ねても亀の会の山行を楽しむ要因となり、居心地のいい雰囲気醸し出していると思う。同年代の仲間はお互い気兼ねなく、みんな励ましあっているのも活力を生んでいると思う。

元気で和気あいあいの雰囲気を山頂で見ていた若い女性3人組の登山者から「入会したい」と声をかけられた。亀の会は65歳以上でないとい入会資格がないが、日本山岳会の入会については、東海支部のホームページを見るよう伝えた。うれしい評価だ。今後とも、楽しい亀の会山行をしていきたい。

亀の会 加藤守彦

山行委員会だより

● 山行委員会活動と安全登山

退職後、単独登山を志向しておりましたが、家内からの「安全登山で過ごしてください」との一言で2006年に東海支部に入れて頂きました。山行に参加し楽しんでいましたが、お手伝いをしたいとの簡単な思いでリーダーを引受けました。十数年の山行では、いろいろ教えられることが多く有意義なひと時でした。トピックスを下記します、80歳目の爺ちゃんの一言です。安全登山に役立てていただけると幸いです。

① 非常事態以外では隊を分けない。疲れて遅れた人とそのサポートの2人、車回収のための健脚2人、中間の2人、で林道を下山しました。車回収隊が戻ると中間の2人がいない。林道わきに赤布があったから赤布に沿って山の中に入った、とのこと。日没となり懐中電灯と笛で呼びかけ捜索し、谷底を下っていた該当者と連絡が取れ合流できました。地図上で一度登山してから参加して欲しいです。

② 水を持参すること。1日7時間の山行で水なしの参加者がいました。リーダーが500cc提供して出発です。リーダーは下山道が沢筋で水の確保が出来ると思ったのです。水だけは自己確保が絶対です。

③ 頂上で休憩後反対側に下山する人を防ぐ。頂上につくと安堵し休憩時間を楽しみます。広く丸い山頂は眺めが良く寛げます。下山方向に赤布を付けるか、何か目印をつけ注意喚起する。広く丸い分岐点も同じです。

④ スマホで現在地と方向が分かるから安全です、は通用しない時がある。奥三河の山地で藪漕ぎをしました。現在地が欲しく得意のスマホをだしました。ところが磁石がくるくる回り定まりません。地形が分かる尾根に出て何とか地図上の位置と方向が分かりました。霧の中だったらどうでしょう。事前に尾根谷概念図を頭に入れておきましょう。磁鉄鉱がある山、溶岩台地などは磁石が狂いやすい、と言われていました。

⑤ 山の厳しさを知らなくて山に登ってよいはずがない。雨の日、みぞれの日、台風の前兆ありの日、なども熟練したリーダーのもとで山行して欲しい。途中で山行中止かコース変更か、などもあるでしょう。ツェルトの使用、レイン

ウェアだけでのビバークなど経験できることもあるでしょう。厳しさを知ってこそ安全登山に向かっていけると思います。

⑥ 気持ちよく居眠りして休んではいけない世界がある。キリマンジャロの火口縁のギルマンズポイント5682mで疲労困憊、陽ざしが気持ちよく眠くなりました。眠ると呼吸が浅くなり、脳と肺と全身に酸素補給が十分行き届かずに高山病が進行し意識不明になります。そこで一呼吸ごとに深呼吸し何とか山頂のウフルピークにつきました。深夜1時にキボハット4702mを出発し、登頂後ホロンボハット3720mまで下る15時間の山行です。登頂率は5～6割のようです。空気を十分吸える山は楽しいです。

⑦ リーダーは参加経験の浅い方へのはじめの会話にご配慮してね。参加者の中にチーム員との触れ合いが浅い方がおりました。気を和ませるために、「好きな時に好きなだけ休んで登ろうね」と言って登り始めました。すると休憩時に真顔で「支部友のリーダーはもっと立派です」と抗議されました。これからは小生も立派になっていきたいです。(石井 仁)

● 山行リーダーとして初支部山行の実施

今年度から支部山行リーダーを担当することとなり、今回初めて雨乞岳山行を実施した。初山行にあたり、支部山行は登山学校山行と違い、メンバーの人数、足並みが未確定の状況で山行先を決定する必要があった。今回は危険箇所も少なく、尾根コース+谷コースと変化のある郡界尾根から雨乞岳へ行き、クラ谷から武平峠へ戻るコースとした。

自ら考え判断できる自立した登山者を目指して登山の実力を向上させることを目的とした。このため、順次先頭を交代して歩き、地形図・コンパスによるルートファインディングとメンバーの体力を配慮したペース配分を体験してもらった。これからの山行に活かして頂けるものと思う。

今回山行委員・参加メンバーの皆様のご協力の下に、天気・紅葉に恵まれ、初支部山行を無事終えることができ、ほっとしている。今後も地形図をベースとした地図読みを適地で行い、実りある支部山行を実施して行く予定である。

(鬼頭 則俊)

会 務 報 告

【2021年8月常務委員会】

1. 支部長挨拶(高橋) 評議員、箕浦さんが8月24日ご逝去された。支部からは弔電で対応。

2. 総務委員会(今津) : 入会、登山学校より二人。猿投の森音楽会は中止の手続きを終えた。

新会計業務について、新業務に移行するにあたってパソコンと会計ソフト導入のため費用が必要。支部会費の振込方法は郵便振替用紙から銀行振込に変更。会費の請求は支部報と同封をやめて会費請求のみで郵送するなど変更事項がある。常務委員から承認された。

新ルームアドレス、jactokail07@gmail.com

60周年記念事業1月16日、10年前の資料を参考に検討。記念品販売を検討。青年部の荒木さんに担当依頼。

3. 支部友委員会(金谷) : 7月恵那山、赤岳実施。8月北横岳、甲斐駒中止。まん延防止の場合は個人山行に変更して実施は可能、緊急事態宣言中は中止とする。8/10支部友ミーティングは実施できた。

4. 猿投の森づくり委員会(和田) : 緊急事態宣言発令されたら、ワクチン2回接種後10日以上経った人、PCR検査で陰性が確認できた人でなければ参加できない。

5. 東海 Youth(服田) : 会員動向変更なし。定例山行なし。9月沢登りを宮路山～五位山に変更。10月は西台山、道迷い検証予定。8/6ZOOMで委員会実施。

6. 山岳古道調査委員会(西山) : 伊勢神峠、八風峠、大台ヶ原、東山道を選定した。

7. 支部報編集委員会(星) 167号原稿は8月末。「東海山岳」最終締め切り11月末に提出希望。

8. 青年部(荒木、欠席) : 青年部から提供できる共有装備は、保持している三つのテントのうちモンベルストラリッジ4のみと装備委員会に報告した。

9. 学生連盟(草野) : 活動ほとんど実施できず。大同大学は2ヶ月間で一泊二日の登山一回。名古屋大学は2週間に一度の活動。三重大学、岐阜大学は一か月に一度の活動。山行計画なし。

毎年、御在所の藤内小屋で学生が企画している交流の場、ゴザフェス10月2(土)～3(日)開催予定。加盟大学内で規模を小さくして感染対策をして実施予定。

10. 登山学校運営委員会(服田) : 緊急事態宣言発出中は「愛知県内・日帰り」に限り実施。

8月9月の机上講習は延期。1-B8/1母袋烏帽子岳実施。他は感染状況によって延期または中止。

11. ボランティア委員会(前田) : 秋のブラインド登山は11月予定している。身柄付補導委託登山、11月2日(金)猿投山日帰りで裁判所の判断で実施予定、中止はやむを得ない。ひまわり登山、9月11日予定だったが、まん延防止等重点措置のため中止。親と子の登山教室、今年度は中止。SON愛知(知的障がい者)宮路山～五井山中止。

12. 写真展実行委員会(伏屋) : 撮影の山行は7月に伊吹山遊歩道に行った。他は中止。

13. 森の音楽祭実行委員会(今津) : 中止

14. 技術向上委員会(清水) : 道迷い対応訓練10月30日(土)岐阜県梶帽子嶺、感染対策して実施。イグルー(圧接ブロックを使って作る一時的シェルター)講習会2月中旬から3月、雪が固まった段階で実施予定。NHKの11月中旬ネイチャーシリーズで白山の美濃禅定道のガイドをする。

15. 遭難対策委員会(山田) : リスクグレード3の基準をマニュアル化する。8月山行中止。

17. 装備委員会(千葉) : 地下倉庫にある装備で不要な物は廃棄予定。10月くらいに10人ほど集まって倉庫整理予定。HP、支部報等で周知する。

18. その他 : 支部の広報活動として、Facebook、ツイッター、インスタグラムを活用していく。東海支部でアカウントを取る。荒木さん他若年層得意な方で担当。

60周年記念ラリー(山田)登山締め切り9月30日に終了。10月10日までに登頂登録を済ませること。

出席 : 高橋、今津、千葉、草野

リモート参加 : 山田、和田、佐野、服田、星、西山、井藤、金谷

【2021年9月常務委員会】

1. 支部長挨拶(高橋) : コロナの感染者も減ってコロナの影響も治まると、10月からのイベントも増えてくる。今後とも現地集合等、三密には十分気を付けて活動をしてほしい。

2. 総務委員会(今津) : 9月の入会者は1名・退会者は3名・物故者1名だった。ファイル共有サーバーを新設した。

3. 支部友委員会(金谷) : 9月6日に委員会を開催した。8月、9月の計画は全て中止にな

った。朝明ミーティングも来年 4 月に延期となった。

4. **山行委員会（鈴木慎）**：9 月 4 日にオンラインで行った。7 月、8 月の計画は殆ど中止で、8 月 4～5 日の北アの白馬岳のみ行った。リーダー育成は山田さん中心にしている。10 月 16 日には奥又白を計画している。又 10 月から、支部報に山行委員会便りを載せる。

5. **猿投の森づくり委員会（和田）**：定例作業は予定通り実施。10 月から名古屋環境大学が開催される。定員に余裕があるので家族で参加して森の勉強をこの機会にしてほしい。また猿投の森の紹介動画が出来た。是非普及をさせたい。

6. **東海ユース（服田）**：定例山行 9 月は宮路山から五位山に 4 名の参加で実施。10 月は道迷い検証で西台山を計画。9 月 5 日に運営委員会をズームで実施した。12 月の冬山フェスタで新人勧誘を計画している。

7. **60 周年記念事業（今津）**：ラリーの商品代を抜いて企画が決まった。

8. **青年部（荒木）**：退会者 2 名、入会予定者（10 月）1 名、朝明ミーティングは延期。10 月 2～3 日に御在所でクライミング講習、10 月 23 日のキノコ狩を計画している。

9. **登山学校運営委員会（服田）**：9 月 13 日に委員会を実施した。学校山行は 8 月に 1 クラスで実施。9 月は 3 クラスで実施した。10 月は予定通り計画している。机上講習を 9 月 26 日にオンラインで「登山の基礎知識」・「日本山岳会と東海支部」テーマに開催した。参加者 28 名。10 月 23 日には「読図、基礎編」「登山計画書の作り方」を行う。9 月 11 日の渡渉訓練はコロナで中止になった。

10. **自然保護委員会（井藤）**：定例委員会は中止の為、猿投の森の動物の写真が紹介された。

11. **東海学生連盟（高橋）**：10 月 2・3 日御在フェスと同様の、企画の開催を計画している。詳細は未定。11 月に役員改選を行う。

12. **海外登山委員会（高橋）**：ネパール入国と帰国後の日本国内での 2 週間の隔離など最近の海外登山事情の説明有り。

13. **ボランティア委員会（前田）**：支部主催のブラインド登山は 11 月 14 日に感染状況を踏まえて実施予定。36 名乗りの福祉バスで定員 18 名にして計画。裁判所の身柄付き補導委託登山は中止し、来年度に向け下見登山を行う。

14. **支部刊行物編集委員会（星）**：支部報は 9/30 発送。10 月には支部員に送付される。東

海山岳は、見出し・執筆者は決まって、受け取った記事もある。締切りにはまだ期日があるが委員会報告など現状報告は速やかに欲しい。

15. **遭難対策委員会（山田）**：8 月はコロナ感染の影響で届け出が少なかった。緊急事態宣言が明ける 10 月になり山行が増えると高齢者を中心に滑落事故・遭難も増える事になる。無理な計画は立てない様にしてほしい。

〈お知らせ〉冬山気象講座を 12 月 11 日に PM15 時から行う。60 山ラリーは 9 月末で終了する。10 月 7 日までにルーム必着で葉書を出して欲しい。

16. **技術向上委員会（清水）**：道迷い遭難を防ぐ登山講習会を 10 月 30 日に蠅帽子嶺で開催を予定している。現在 5 名参加。また、最近の滑落事故に関して安全登山に対する装備の有り方などの提案が話された。次回委員会は 10 月 20 日に開催。最後に中部ネイチャーの紹介をした。

17. **古道調査委員会（西山）**：一番目に伊勢神峠、二番目には八風峠、大台ヶ原と尾鷲を結ぶ古道（尾鷲道）、三番目に西山氏が挙げた小川路峠で調査を進める。

19. **会計（奥山）**：支部員の会費再請求は 10 月初旬に行う。登山学校・支部友は、奥野さんより再請求を行っている。

出席：高橋、今津、和田、服田、奥山
リモート参加：金谷、井藤、佐野、鈴木（慎）、清水、星、荒木、前田、山田、片岡、千葉、西山

【2021 年 10 月常務委員会】

日時：10 月 27 日（水）19 時～20 時（ZOOM との平行開催）

1. **支部長挨拶（高橋）**：60 周年記念事業、新年会開催したい。60 山ラリーも締めくくった。山田利行君、来年春ヒマラヤ目指す。年次晩さん会を WEB で開催。カナダから報告してもらおう。名誉なことなので東海支部隊と山田君の活躍を WEB 登録して見てほしい。

2. **総務委員会（今津）**：支部ルームアドレス旧 room01@muse.ocn.ne.jp は使わないでください。新 jactokail07@gmail.com です。

ファイル共有サーバーを導入した。各委員会で使う場合は連絡ください。60 周年記念山行委員会、支部友委員会、ボランティア委員会から各 1 名お手伝いを依頼。

3. **愛知岳連：（鈴木愛欠席）**：遭難防止を考える講演会、登山体を取り戻す日常的トレーニング

11月26日(金)19:30~20:30 オンライン。

各自で申し込む。無料。

4. 山行委員会 (鈴木慎) : 10月から11月の山行について報告。荒船山・妙義山の山行、ガレ場岩場が多いので充分注意と伝えた。新型コロナの緊急事態宣言が解除されたが山行計画が少ないのでリーダーに計画立案をお願い中。リーダー育成、女性リーダー育成のための山行、奥又白池は悪天で中止。コロナ対応について感染防止対策の徹底要。事前にリスクを伴うことはリーダーに自重していただきたい。計画書の提出だけでなくリスクチェック表、ルート図も含めて事前に審議を行う。

5. 亀の会 (加藤) : 10月28日吉祥山山行、中日新聞豊橋総局の同行取材を受ける。

6. 猿投の森づくり委員会 (和田) : 10月からは東大演習林の間伐実施。なごや環境大学、下期全4回の第一回の講座開催。生徒1歳から60代まで家族連れを中心に14名参加。間伐材を利用したスウェーデントーチ作成。新聞紙一枚でコンロ代わりになる。支部からも参加できる。令和2年7月から3年6月まで活動に対して緑推助成金、実績報告をして35万円振り込まれる。法人デーは11月。12月25日(土)仕事納め、なごや環境大学のもちつき実施予定。東海 youth 参加予定。(参加希望者は和田さんにメールすること)

7. 東海 youth (服田) : 女性会員が退会。10月妙法ヶ岳に変更実施。(揖斐川の道の鉄板が外されたらしい) 12月25日 AM 猿投山山行、午後は猿投の森づくりの餅つき参加。

8. 支部報編集委員会 (星) : 168号案: 60周年カンチナナップ北壁登山計画。ゴザフェス2020削除。・亀の会はお祝い山行を掲載。

9. 支部刊行物編纂委員会 (星) : 東海山岳: 60周年記念。記念事業、記念登山、研究論考など掲載。基本的にはデジタル。各委員会の原稿は70周年に向けて委員会の過去・現在・未来をどう考えるかという内容で。

10. 青年部 (荒木欠席) : 10/2.3 御在所クライミング講習。懇親会も含めて実施。

11. 東学連 (丸岡春香) : 11月から丸岡委員長就任。

12. 登山学校運営委員会 (服田) : ・机上講習10/23 読図(鈴木慎) 受講生20名指導員5名。登山計画の作り方(榊) 受講生23名指導員6名。11月2回予定。・同窓会、活動再開。今年度、特待生選考、年会費免除。リーダー育成意

務、意欲のあるSLは学校山行を通じてCLの判断で経験を積む。

13. 自然保護委員会 (井藤) : 環境省からのカメラを3台借りて撮影している。B地点のカメラが映らなくなったので場所の移動を検討中。獣道のある所を探す。

14. 海外登山委員会 (高橋) : 日本山岳会60周年記念登山。クーンブヒマラヤ・カンチナナップ北壁。春に登山。メンバーは山田さんと谷さん。未踏ルート成功すれば初登頂となる。予算は約180万円、寄付金活用チャレンジ基金など。ミレーとモンベルからスポンサーを受けている。60周年の新年会にもWEBで登場してもらう予定。本部の助成を受ける手続き中。

15. 遭難対策委員会 (山田) : 委員会山行11/14 御池岳、遭難メンバーほぼ全員参加。12/11 冬山気象講座リモート併用。緊急事態宣言解除され山行時には必ず登山計画提出。

16. ボランティア委員会 (前田) : ブランインド登山11/14 開催予定。タンポポ登山(身柄付補導委託登山)中止。裁判所の方と下見は行く。

17. 技術向上委員会 (清水) : 10/30 道迷い遭難を防ぐ講習会。蠅帽子嶺。会員8名、会友1名。GPSアプリに親しんでもらう。10/16 京都・滋賀支部主催講演会参加者56名。中部ネイチャーシリーズ11/26(金)放送予定、白山~いのりの道をたどる旅。エッセイスト矢部華恵さん案内。イグルー講習会、2月予定。作ったイグルーは解体すること。

18. 写真展実行委員会 (伏屋) : 11/4 に委員会開催。

19. 装備委員会 (千葉) : 11/16 棚卸の予定、それまでに私物は整理のこと

20. 60周年記念事業、新年会について (山田) : 60山ラリー表彰式20分くらい時間必要。講演会は参加するが懇親会は欠席したい人は、申し込みはがきで選択できる。

出席: 高橋、佐野、今津、服田、和田、奥山
リモート参加: 鈴木(慎) 星、井藤、加藤、清水、伏屋

【2021年11月常務委員会】

日時: 11月24日(水) 19時00分~21時30分
(zoomとの平行開催)

1. 支部長挨拶 (高橋) : コロナ禍は収束しつつあるが、第6波に注意しながら活動をお願いしたい。60周年記念のヒマラヤ遠征計画が2つ進行中。若手の山田さんと実年の星さんのパーティ。支部としても応援していきたい。装備委

員会による地下倉庫整理が難航している。関係者は対応のこと。

2. 総務委員会(今津): 報告事項・相談事項・連絡事項は配布資料のとおり。退会者4名。

3. 愛知岳連(鈴木愛): 冬山遭難対策会議について配布資料のとおり開催。該当する委員会山行あれば鈴木まで。

4. 支部友委員会(金谷): 12/14の支部友ミーティングは中止。

5. 山行委員会(鈴木慎): 女性リーダー育成はコロナ禍で停滞していたが11/27に開催。メンバー4名のみで実施。新規リーダー候補に登山学校卒業生の大西氏。まずはオブサーバーとして委員会に入会してもらい、ゆくゆくはリーダーをお願いしたい。石田文男氏にリーダーを依頼、承諾を得た。石井仁氏が退任。

6. 亀の会(加藤): 活動については配布資料のとおり。10/28 卒寿・米寿・傘寿山行実施。(ZOOM不調のため資料のみ)

7. 猿投の森づくり委員会(和田): 12/25の納会は是非参加ください。

8. 東海ユース(服田): 12月は山行後、猿投の森の納会に参加。冬山フェスタでは新人勧誘を実施予定。

9. 60周年記念事業(尾上欠席): (高橋) 60周年について記念品を考えて欲しい。検討いただきたい。また、第一部の後、海外登山について壮行会兼ねて紹介予定。また、12/10山田氏が本部晚餐会にて講演を行う。是非視聴いただきたい。

10. 海外登山委員会(星): 進めていくことについて承認いただきたい。→該当エリアの安全について十分考慮して進めること。

11. 支部報編集委員会(星): 11月末メ切なのでご協力を。

12. 支部刊行物編集委員会(星): 東海山岳の記事について現時点の目次を配布。

13. 青年部(荒木): 10~11月の活動について配布資料のとおり。2月八ヶ岳にて冬山合宿予定。

14. 学連(丸岡): 委員長が草野氏から丸岡氏に交代。年末年始に雪山登山を予定。

15. 登山学校運営委員会(服田): 山行及び机上講習等活動は配布資料のとおり。1Bが体調不良のため1名減のため、交通費負担措置の適用人数を3名に引き上げたい。→了承

16. 自然保護委員会(井藤): モニタリング1000は次回もエントリー予定。→(佐野) 報告書を

まとめて発行してはどうか。

17. ボランティア委員会(前田): 11/14 ブラインド登山無事終了。

18. 遭難対策委員会(山田): 登山届提出状況について配布資料のとおり。猿投山行方不明者について、過去2回にわたり実施したが発見できなかったものの、今回、登山者により所持品が見つかったことから第3回を実施。急斜面でロープが必要になるため、メンバーを絞って実施予定。

19. 写真展実行委員会(伏屋): 4か月ぶりに委員会実施。活動については配布資料のとおり。(高橋) 写真撮影について講習会など実施してはどうか。→講師が難しい。予算も必要。検討していきたい。

20. 装備委員会(千葉): 冒頭に話のあったとおり、倉庫の装備の整理を行おうとしたが難航。皆さんにご協力いただき整理し、今後はルーム内で保管していきたい。

21. 技術向上委員会(清水氏欠席につき今津): 10/30の道迷い遭難を防ぐ登山講習会は無事実施、大変勉強になったと好評。2月にイグルー講習会を実施予定。

ル ーム 日 誌

—・— 9月 —・—・—・—・—・—

大会議室 / 小会議室

- 1(水) 青年部
- 2(木) 写真展実行委員会
- 5(日) 東海ユース
- 6(月) 支部友委員会
- 7(火) 県岳連 /TNCC
- 8(水) 山行委員会
- 9(木) 自然保護委員会
- 10(金) 全国支部懇談会
- 13(月) 登山学校運営委員会
- 15(水) /技術向上委員会
- 16(木) 正副支部長会議
総務委員会
- 20(月) 図書委員会・読図会
- 21(火) ボランティア委員会
- 22(水) 常務委員会
- 26(日) 登山学校講習
- 27(月) 支部友読図会
- 28(火) 遭難対策委員会
- 29(水) 支部友山行打ち合わせ
- 30(木) 支部山行打ち合わせ

—・— 10月 —・—・—・—・—・—

大会議室 / 小会議室

- 4 (月) 学校指導員研修会
 5 (火) 県岳連 /TNCC
 6 (水) 青年部
 7 (木) 写真展実行委員会
 8 (金) 60山ラリー委員会
 11(月) 登山学校運営委員会
 13(水) 山行委員会
 14(木) /自然保護委員会
 18(月) 図書委員会・読図会
 19(火) ボランティア委員会
 20(水) /技術向上委員会
 21(木) 正副支部長会議/総務委員会
 22(金) 亀の会
 25(月) 遭難対策委員会/支部友読図会
 26(火) 60山ラリー
 27(水) 常務委員会
 28(木) 支部友山行打ち合わせ
 29(金) 支部山行打ち合わせ
 --- 11月 ---
 大会議室 /小会議室
 1 (月) 支部友委員会
 2 (火) 県岳連 TNCC

- 5 (金) 古道塩の道
 8 (月) 登山学校運営委員会
 10(水) 山行委員会
 11(木) 自然保護委員会
 12(金) 全国支部懇談会
 14(日) 猿投の森づくり自然観察会
 15(月) 図書委員会・読図会
 16(火) ボランティア委員会 /装備委員会
 17(水) /技術向上委員会
 18(木) 正副支部長会議
 22(月) 支部友読図会
 24(水) 常務委員会
 27(土) 登山学校講習
 30(火) 遭難対策委員会
 会員異動
 入会：大西伸幸(16820) 杉浦妙子(16827)
 濱谷光安(復活 9280)
 廣瀬秀一(16837) 廣瀬幸子(16838)
 退会：田中浩(16179) 小澤大輔(15810)
 則包奈緒(16100) 長谷川徹(15864)
 原田憲一(16775) 児玉吉正(14202)
 物故：尾崎祐一(5822)

I N F O R M A T I O N

【総務委員会からのお知らせ】

△ 東海支部創立60周年イベントのお知らせ△

2021年度支部新年会は、本会会長の古野 淳様、事業委員長の宮崎紘一様をお招きし、以下のよう
 に60周年記念イベントを行います。

日時：2022年1月16日（日）午後1時開始

場所：今池ガスビル

地下鉄 今池駅 10番出口直結

第1部 式典 7Fダイヤモンドルーム

- ・永年会員表彰、「60山ラリー」表彰
- ・60周年記念登山隊計画発表

第2部 講演会 7Fダイヤモンドルーム

講演会 I マカルー南東稜初登攀50周年を記念

して「その先には、もう高い所はなかった」

マカルー隊員、元日本山岳会会長 尾上 昇

講演会 II 「未知と困難への道」

現代ヒマラヤ登山の最先端を語る

ピオレドール賞3度受賞 平出和也氏

第3部 懇親会 8階レストラン「ガス燈」

総務委員会 今津英一朗

3 (水) 青年部

4 (木) 写真展実行委員会

【写真展実行委員会からのお知らせ】

写真撮影山行を下記のとおり企画しています。
 是非参加をご検討ください。

2月3日(木)～4日(金) 1泊2日

長野県美ヶ原 王が頭ホテル泊

松本駅集合、ホテル送迎車

ホテル主催の雪上車乗車、星空観察 あります

世話人 熊谷 美喜子

締め切り 2022/1/15

・参加ご希望の方は、伏屋までメールでお知らせ
 ください。 fmit1211@mediacat.ne.jp

写真展実行委員長 伏屋 満

新年あけましておめでとうございます。昨年
 11月6日に秋の安全登山啓発活動（鈴鹿山系）
 があり、安全登山の呼びかけに参加しました。

早朝よりまず、ベテラン組が通り過ぎ、用意
 した「登山届け」を慌てて用意。日が昇り、家
 族連れの高ハイキング姿が多くなると、たちまち
 登山届け用紙が足りなくなる有様でした。登山
 届を準備・提出して安全登山を心掛けましょう。

星 一男

SINCE 1975
mont-bell
FUNCTION IS BEAUTY

最新情報はこちらから
www.montbell.jp



0088-22-0031 06-6536-5740

株式会社 **モンベル** 【お問い合わせ】モンベル・カスタマー・サービス

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004
www.nygs-office.com

久屋大通駅
徒歩1分

『東海支部報』では、
広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは

jactokai107@gmail.com まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
デザイン、インテリアやセキュリティなど
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 Honesty

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒461-0044 名古屋市東区矢田東1番22号
TEL (052) 719-0677 FAX (052) 719-0678
E-mail: info@asai-rbs.co.jp